

# 里館遺跡

SATATE SITE

—保育園建築に伴う緊急発掘調査報告書—

2019. 8

社会福祉法人 天昌寺福祉会

盛岡市教育委員会

# 例 言

1. 本書は、岩手県盛岡市天昌寺町に所在する里館遺跡で実施した発掘調査の報告書である。
2. 本書は、保育園建設に係る事前調査であり、記録保存を目的とした緊急発掘調査である。調査期間は、平成30年4月3日から平成30年6月22日、調査面積は920㎡である。
3. 本調査は、事業主体者である社会福祉法人天昌寺福祉会と盛岡市教育委員会との間に締結された協定書に基づき、盛岡市遺跡の学び館が野外調査および出土資料整理・報告書編集を行った。また、本調査に係る費用は、事業主体である社会福祉法人天昌寺福祉会より支出された。
4. 本書の編集は盛岡市遺跡の学び館が行い、執筆作業は佐々木亮二、今野公顕が担当し、佐々木あゆみ、上柿南が補佐した。
5. 遺構平面位置は日本測地系を用い、公共座標第X系を座標変換した調査座標で表示した。  
里館遺跡 調査座標原点  $X - 32,000 \cdot Y + 24,500 \rightarrow RX \pm 0 \quad RY \pm 0$
6. 高さは標高値をそのまま使用している。

7. 遺構記号は次のとおりである。

遺 構	記 号	遺 構	記 号	遺 構	記 号
柱 列 跡	SA	掘立柱建物跡	SB	堀・溝跡	SD
竪穴建物跡	SI	土 坑	SK	竪 穴	RE

8. 調査業務の一部を下記業者に委託した。  
調査座標設置及び航空写真撮影 株式会社タックエンジニアリング
9. 調査および整理作業には、次の方々の協力を得た。(五十音順、敬称略)  
[発掘調査・室内整理作業]  
伊藤敬子、及川亜矢子、及川京子、折原エツコ、川村久美子、小松愛子、佐藤和子、佐藤美智子、佐野光代、高橋弘子、千葉留里子、細田幸美  
[助言・協力]  
岩手県教育委員会、宗教法法人天昌寺、社会福祉法人天昌寺福祉会、中村華人
10. 発掘調査に伴う出土遺物および諸記録は、盛岡市遺跡の学び館で保管している。

# 目次

例言
目次
表目次
挿図目次
写真図版目次

I 遺跡の環境	1
II 調査成果	4
III 総括	44
付章	

## 表目次

第1表 里館遺跡調査成果一覧①	7
第2表 里館遺跡調査成果一覧②	8
第3表 竪穴建物跡一覧	9
第4表 竪穴跡一覧	9
第5表 柱列跡一覧	19

第6表 掘立柱建物跡一覧	19
第7表 溝跡一覧	33
第8表 土坑一覧	33
第9表 ビット計画一覧	37

## 挿図目次

第1図 里館遺跡位置図	1
第2図 地形分類と周辺の遺跡分布	3
第3図 里館遺跡全体図	5
第4図 第64次調査区全体図	10
第5図 第64次調査区遺構配置図	11
第6図 S I 323 竪穴建物跡	12
第7図 S I 324 竪穴建物跡	13
第8図 S I 325 竪穴建物跡	14
第9図 S I 326 竪穴建物跡	15
第10図 S I 327 竪穴建物跡	16
第11図 S I 328 竪穴建物跡, RE 004 竪穴跡	17
第12図 RE 005 竪穴跡	18
第13図 SA 308 ~ 311 柱列跡	20
第14図 SA 312・313 柱列跡	21
第15図 SB 320・321 掘立柱建物跡	22
第16図 SB 322 掘立柱建物跡	23
第17図 SB 323 ~ 325 掘立柱建物跡	24

第18図 SB 326 ~ 328 掘立柱建物跡	25
第19図 SB 329 掘立柱建物跡 (1)	26
第20図 SB 329 掘立柱建物跡 (2)	27
第21図 SB 330・331 掘立柱建物跡	28
第22図 SB 332 ~ 335 掘立柱建物跡	29
第23図 SB 336・337 掘立柱建物跡	30
第24図 SB 338・339 掘立柱建物跡	31
第25図 SB 340・341 掘立柱建物跡	32
第26図 SD 300・413 溝跡	34
第27図 SK 456 ~ 460 土坑	35
第28図 SK 461 ~ 467 土坑	36
第29図 ビット断面図 (1)	38
第30図 ビット断面図 (2)	39
第31図 遺構、遺構外出土遺物 (1)	41
第32図 遺構、遺構外出土遺物 (2)	42
第33図 遺構、遺構外出土遺物 (3)	43
第34図 斉藤家五代目善右衛門農昌様之里館の絵図	51・52

# 写真図版目次

第1図版	里館遺跡第64次調査区遠景，里館遺跡第64次調査区全景	55
第2図版	S I 327 竪穴建物跡，竪穴建物跡（S I 323～325）重複状況	56
第3図版	S A 312 柱列跡，S B 324～328 掘立柱建物跡	57
第4図版	S B 329 掘立柱建物跡，S D 300 堀跡	58
第5図版	里館遺跡第64次調査出土遺物①	59
第6図版	里館遺跡第64次調査出土遺物②	60

## ○遺物について

挿図中の記号番号は，遺物の出土地点及び出土層位を表している。

(例) RA 001 A層 → RA 001 竪穴住居跡A層より出土

(例) G 6 - A 2 0 III a層

↓ ↓ ↓

※1 ※2 ※3

- ※1 大グリッド……遺跡の全体を50mメッシュで区切り設定した。北西隅を起点に西から東にA・B・C・・・のアルファベット，北から南には1・2・3・・・のアラビア数字を付し，A6，C12など，両方の組み合わせでグリッド名を表した。
- ※2 小グリッド……大グリッドの中をさらに2mメッシュで区切り，北西隅を起点として西から東にA～Yのアルファベット，北から南に1～25のアラビア数字を付し，グリッド名は両方の組み合わせで表した。
- ※3 遺物の出土層位を示す。

## ○遺構について

各遺構の平面図で，複数の遺構を同一図面に表示する場合，説明する遺構は実線で表し，重複遺構は一点鎖線で表し，掘込面に層位差のある重複遺構は二点鎖線で表した。

土層図は堆積のしかたを重視し，線の太さを使い分けた。層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』(1994 小山正忠・竹原秀雄)を参考にした。



## 2. 歴史的環境

**周辺の遺跡** 里館遺跡が立地する沖積段丘の北側には、岩手山を主な給源とする火山灰砂台地（滝沢台地）の南縁部が接しているが、その範囲は盛岡市北部から滝沢村北部までおよび、数多くの縄文～平安時代の遺跡が立地する。

**縄文時代** 滝沢台地の南東部にあたる厨川地区には数多くの縄文時代の遺跡が分布している。大新町・大館町・安倍館遺跡からは草創期の「爪形文土器」が発見されている。それに続く早期の押型文や貝殻文土器も大新町遺跡から出土している。ほかにも大館堤・館坂・前九年・宿田遺跡で早期初頭～末の土器群が確認されている。中期になると大館町遺跡に大規模な集落が営まれるようになり、周辺の大館堤・大新町・小屋塚遺跡でも小規模な派生集落が確認されている。

**弥生～古墳** 弥生時代については遺物が少量発見されるものの、明確な遺構はあまり確認されていない。安倍館遺跡で弥生終末期の赤穴式、後北C 2-D 式が出土している。古墳時代の遺構・遺物も発見は少ないが、宿田遺跡で北大I 式や南小泉式併行期の古式土師器など、統縄文や古墳時代中期～後期の遺物が確認されている。

**古代** 奈良時代になると小規模ながら、大館町・大新町・小屋塚遺跡に竪穴住居が造られ集落が営まれ始める。また、本遺跡の北東に位置する宿田遺跡からは円形周溝墓が数多く発見されており、周辺集落の共同墓地として利用されていたと推測される。平安時代（9世紀）になると志波城（803年）が造営され、この地域にも律令国家の支配が及ぶ。

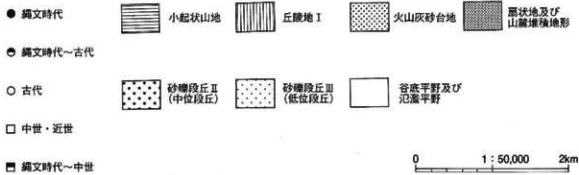
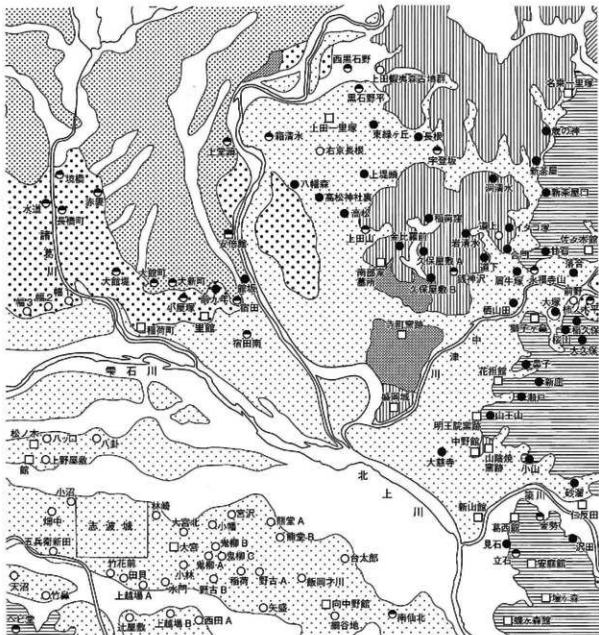
10世紀後半から12世紀までの遺跡は少ないが、大新町遺跡や小屋塚遺跡では11世紀前半頃の掘立柱建物や竪穴と土器が出土している。境橋遺跡、宿田遺跡、上堂頭遺跡でも11世紀前半の遺構遺物が確認されている。また、近年の発掘調査で里館遺跡の北西約1.5キロに所在する赤堤遺跡では、土器製作工房から数千点に及ぶ11世紀前半の土器が出土し、その供給先であろう「厨川橋」の存在を間接的ではあるが、裏付ける成果が上がっている。里館遺跡でも12世紀後半の溝と土塁で構成された虎口や掘立柱建物跡など、居館に付随する遺構が確認されている。

**中世** 戦国期の盛岡周辺は、南部氏と斯波氏の衝突が激しかった地域であるが、市内に数多く分布する城館の多くは、室町時代から戦国時代に築かれたものと考えられている。これらの城館跡は、丘陵や山頂など見晴らしのいい場所だけでなく、平野部でも交通の要衝に当たる微高地上に多数築かれている。里館遺跡は15～16世紀を主体とした、工藤氏の城館跡であり、安倍館遺跡も工藤氏が築いた7つの曲輪を擁する16世紀を中心とした栗谷川城跡である。

**近世** 現在の城下の町並みの形成は、南部氏の盛岡城築城から始まる。

九戸合戦終結後の天正19年（1591）、南部信直は帰還する豊臣軍の軍監浅野長政から不來方城において、この不來方の地に新城を築くよう、積極的に契められている（『祐清私記』）。その後、慶長2年（1597）より盛岡城の築城は始まり、寛永10年（1633）に一応の完成をみる。

江戸時代、里館遺跡が位置する厨川地区は厨川通栗谷川村に属し、東に鹿角街道、南に秋田街道が通じていた。絵図などを参照すると天昌寺付近には民家が立ち並び、後述する附章にもあるとおり諸士と思われる屋敷も存在していた。近世に属すると考えられる掘立柱建物跡等の遺構は、それら栗谷川村を構成していた建物の一部であろう。



第2図 地形分類と周辺の遺跡分布

## II. 調査成果

### 1. 遺跡の現況と過去の調査

里館遺跡は安倍館遺跡のような古絵図はないが、藩政時代末期の下厨川村絵図や板東米軍が撮影した昭和24年(1949)の航空写真や明治期の地誌図等に、これまでの発掘調査で確認した堀や溝の位置や現況の地形を当てはめて判読される城郭構造を表したのが第3図である。

遺跡の南端は、比高差3~4mの段丘崖で宇石川の旧河道によって囲われている。それに沿って東西約400mに渡りⅠ~Ⅷの曲輪が並列している。

寛文八年(1668)の奥州栗谷川古城図では、里館の西方に勾当館(勾当館)が記されており、その南側の低地は勾当下と呼ばれていた。また、天保四年(1833)に記された『盛岡砂子』には天昌寺西側の里館について「いつの頃何某の居館にや由来を不詳」とあり、館主は不明であるが館跡という認識はあったようである。このことから勾当館はⅠ~Ⅱを主体する部分の呼称と推測され、里館はⅥ~Ⅷの部分为主体とすると考えられる。また、Ⅲ・Ⅳは縄張りや地形の連続性から勾当館に付随する曲輪で、Ⅴは東側が大きな堀を隔てているものの、西の勾当館側にも大きな堀跡が存在することから、現段階では里館の曲輪に含まれると考えられる。

里館地区の中にはいくつか堀跡と考えられる地形が存在している。現在の天昌寺の西側には南北に用水路が流れており、この地区の東側の堀跡と推定される。この水路は北に150mで西にわかれ、やや屈曲しながら遺跡西限の水路につながっている。また、国道46号線と市道中屋敷町青山1丁目2号線(以下「市道」)の交差点から南の道路は周辺より一段低い地形で自然の谷地あるいは堀跡と考えられる部分である。このほかにも、堀跡の末端部分と思われる段丘崖の切込みが確認できる。一つは第29次調査の南西部で現在段丘崖を登る通路で、その北側延長上でSD300堀跡が検出されている。(第1・29次調査)。また、市道から段丘崖を西へ50m行った地点に地形の切り込みがあり「堀っこ」と呼ばれている。この北側でSD408堀跡が確認されている(第7次調査)。さらに西方約70mの地点は「小堀」と呼ばれており、かつてこのあたりから北西方向に細長く水田が存在していたことから、やはり堀跡の存在が考えられる。実際に北西延長部分の調査(第42・44次調査)で堀跡を確認している。

### 2. 過去の調査

里館遺跡の調査は、昭和32年の岩手大学の板橋源教授らによる旧国鉄客貨車区建設に伴う事前調査が契機である。これまで盛岡市教育委員会の調査は65次まで行われている。

第1次調査ではSD300・400の2条の堀跡の他、多数の掘立柱建物跡、竪穴建物跡が確認されている。堀跡のうちSD300は、南側の段丘崖の切り込みにつながり、里館地区の南西部を区画するものと考えられる。西側の市道が堀跡の名残と考えるならば、間に南北約60m、東西約40mの曲輪が想定される。SD300の内側(西側)には、4棟の掘立柱建物跡と3列の柱列跡、外側(東側)には、掘立柱建物跡24棟、礎石柱列1列、柱列8列、竪穴建物跡17棟、横跡2条などが確認されている。SD300の東側では、桁行4~6間、梁間2~3間で、身舎内部に間仕切りがあり、庇や広縁をもつ主屋と考えられる建物、桁行4~5





間、梁間1～2間の長屋風の建物、桁行2～3間、梁間1～2間の小形の建物の3種類に大別できる。これらの遺構からは、陶磁器、土器、古銭、鉄製品、石製品などが出土している。15～16世紀陶磁器には瀬戸美濃の灰釉、鉄釉の陶磁器、青磁、白磁の破片などが出土している。古銭では皇宗通寶、元豊通寶、洪武通寶、永樂通寶などが出土している。

第2・3次調査では、第1次調査で確認されたSD 400 堀跡の西の延長と考えられる部分が検出されている。この堀は、段丘崖からはなれて東西方向に掘られているもので、平坦部を南北に区画する堀である。里館地区を区画するものと考えられる。

第7次調査では、「ホリコ」から北に走るSD 408 堀跡の東肩を確認している。上層からは15～16世紀の明門磁皿破片の他、近世～近代の陶磁器類が出土している。

第29次調査では南北に走る堀跡を確認しており、これは第1次調査で確認されたSD 300 堀跡の延長と考えられる。堀の東側からは掘立柱建物跡6棟、掘立柱列跡4列、竪穴建物跡1棟が発見されている。出土遺物としては、16世紀の瀬戸美濃川の破片や16～17世紀の志野川の破片などの陶磁器、皇宗通寶や永樂通寶などの古銭、鉄銚、鉄釘、砥石が出土している。これらの遺構は、第1次調査で確認された堀跡や建物跡と一連のものと考えられる。

第34次調査では、第4次調査（昭和58年）の際に検出した溝跡の延長を確認している。また、溝跡の西側に同時期と考えられる横列跡を1条、12世紀と考えられる竪穴建物跡を1棟、竪穴住居よりも古い掘立柱建物跡を1棟発見している。これらの遺構から、12世紀にかけてのかわらけ片数十点、瀬戸美濃の陶磁器片が数点出土している。

第45次調査では、東西に走る堀跡が2条並んで確認されており、これは第1次調査で確認されたSD 400 堀跡の続きと考えられる。また、堀跡の南側に竪穴建物跡を3棟、土坑2基を確認している。

第54次調査では、第45次調査の続きと考えられる堀跡2条と溝跡2条が確認されている。南側の堀跡は第2次調査で確認されたSD 400 堀跡の北端と考えられる。

第56次調査は里館地区の東端に位置し、これまでの調査で最も多くの竪穴建物跡や掘立柱建物跡と柱穴を確認している。竪穴建物跡は少なくとも5時期に重複しており、長期間使用されていたことが判明している。

第58・60次調査区は勾当館にあたる部分に位置し、第58次調査では里館遺跡の城館期としては最も古い時期になる、12世紀後半の溝と土塁で構成された虎口などの外郭施設や、それに伴う掘立柱建物跡が確認されている。第60次調査では勾当館の2条の堀跡を確認しており、堀跡の埋土中より13～14世紀の常滑窯の破片が出土している。

これまでの調査成果を概観すると、里館遺跡の曲輪の中でも時期差があり、曲輪Ⅰ～Ⅳの勾当館が里館よりも先行して12世紀後半には城館として機能し、13～14世紀まで主体を成していた可能性がある。一方、時代が下り15～16世紀になると主体を曲輪Ⅴ～Ⅵの里館へ移っていく様子が伺える。

次数	所在地	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	期間	検出遺構
昭和32年	権現坂17-2	客貨車区建設		1957.05.06～05.11	中世溝跡, 柱列, 古銭, 鉄滓
昭和49年	天昌寺町222-2	保育園建設		1974.06.12～06.23	時期不詳溝跡
昭和51年	前九年一丁目	新幹線建設	4,600	1976.05.17～10.16	縄文後期壺穴住居跡1棟, 平安前期溝跡1条, 溝跡25条
1	天昌寺町7-13,7-24	店舗新築	1,567	1981.07.28～11.17	中世堀跡2条, 溝跡3条, 掘立柱建物跡28棟, 柱列跡12列, 欄跡2列, 壺穴17棟, 土坑11基
試掘1	天昌寺町28-4	住宅増築	45	1981.10.27～10.31	遺構・遺物なし
2	北天昌寺町149-1	共同住宅新築	510	1981.11.18～12.05	中世堀跡1条, 溝跡1条
3	北天昌寺町150-4	店舗新築	43	1982.04.06～05.11	中世堀跡1条, 近世溝跡1条, 土坑1基
試掘2	北天昌寺町127-1	店舗新築	500	1982.04.07～04.17	平安時代土師器小片, 近世陶磁器小片数点
試掘3	天昌寺町424-4	店舗新築	45	1982.06.28	遺構・遺物なし
試掘4	天昌寺町420-9	貸事務所新築	8	1982.08.17	遺構・遺物なし
試掘5	北天昌寺町2-22	住宅増築	82	1982.09.02	遺構・遺物なし
試掘6	天昌寺町422-2	住宅新築	59	1983.05.13～05.14	遺構・遺物なし
4	北天昌寺町13	住宅新築	48	1983.05.16～05.18	中世溝跡1条, 柱穴9口
試掘7	北天昌寺町1-6	店舗新築	227	1984.07.02～07.07	溝跡3条
試掘8	北天昌寺町125-1	店舗新築	37	1985.01.21	遺構・遺物なし
試掘9	天昌寺町426	物置新築	41	1985.07.15	遺構・遺物なし
5	北天昌寺町10-1	福祉センター新築	798	1985.07.25～08.03	溝跡2条, 土坑1基, 柱穴90口
試掘10	天昌寺町421-3	住宅改築	59	1985.08.29～08.30	遺構・遺物なし
6	北天昌寺町152-13	住宅増築	22	1986.09.06～09.22	溝跡3条
7	天昌寺町420-10	住宅改築	61	1986.09.29～10.09	中世堀跡1条
8	北天昌寺町153-55	住宅新築	220	1987.04.21～04.24	溝跡1条
9	北天昌寺町4-2	住宅新築	23	1987.05.01～05.07	溝跡1条
10	天昌寺町420-2	住宅改築	61	1987.06.02～06.05	中世堀跡1条
11	天昌寺町21-2	駐車場造成	145	1987.06.13	中世堀跡1条
12	北天昌寺町1-2	私道整備	61	1987.07.13～07.18	中世堀跡1条, 土坑1基
13	北天昌寺町1-2	住宅新築	62	1987.09.14	遺構・遺物なし
14	北天昌寺町154-3	私道整備	268	1987.11.13～11.16	遺構・遺物なし
15	天昌寺町425-1,2	営業用	181	1988.04.11～04.25	壺穴建物跡1棟, 溝跡2条, 土坑1基, 掘立柱柱列跡1列
16	北天昌寺町153-53,153-54	住宅新築	60	1988.04.11～04.12	遺構・遺物なし
17	北天昌寺町152-34	営業用	23	1988.09.01	近代以降溝跡4条, 風倒木跡
18	盛岡市天昌寺町143	営業用	112	1988.10.11～10.13	遺構・遺物なし
19	盛岡市天昌寺町419-4	市道整備	33	1988.10.18～10.21	中世堀跡
20	盛岡市北天昌寺町2-11	個人住宅	6	1989.11.27	遺構・遺物なし
21	北天昌寺町3-4	事業営業	134	1990.10.22～10.23	溝跡1条
22	天昌寺町246-4,274,248-1	住宅新築	11	1990.12.19～12.20	中世堀跡1条, 土坑1基
23	盛岡市北天昌寺町4-15	個人住宅	30	1991.05.16	遺構・遺物なし
24	盛岡市北天昌寺町2-8	水道敷設	50	1991.05	遺構・遺物なし
25	北天昌寺町151-1	住宅改築	49	1991.09.09	近世以降陶磁器
26	北天昌寺町8-6,10,11,12,13	店舗新築	91	1992.04.13～04.15	縄文時代土坑1基, 平安遺構溝跡1条, 柱穴2口

第1表 里館遺跡調査成果一覧①

次数	所在地	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	期間	検出遺構
27	北天昌寺町 151-1	住宅新築	218	1992.04.27～05.07	中近世大溝跡 1 条
28	北天昌寺町 142-17	個人住宅	31	1992.06.09	遺構・遺物なし
29	天昌寺町 246-1	倉庫用	384	1992.06.15～07.17	中近世環跡 1 条, 獨立柱建物跡 6 棟, 柱列跡 4 列, 柱穴 210 口, 竪穴建物跡 1 棟, 土坑 6 基
30	北天昌寺町 152-41	店舗新築	27	1993.01.12	遺構・遺物なし
31	天昌寺町 245-1	住宅新築	30	1993.04.15～04.26	中近世環跡 1 条, 崖岸跡 1 ヶ所, 近世遺物包含層
32	北天昌寺町 10-5,11-2,12-2	店舗新築	120	1993.04.19～04.23	古代以降溝跡 1 条, 時期不明溝跡 1 条, 柱穴 3 口
33	北天昌寺町 7-1	個人住宅	73	1994.03.17	用水堀 1 条
34	北天昌寺町 16-1 他	店舗新築	1,094	1994.06.06～07.04	獨立柱建物跡 1 棟, 竪穴建物跡 2 棟, 溝跡 2 条, 横列跡 1 条, 土坑 2 基, 柱穴数十口, 戦時中防空壕, 近現代家跡 1 基
35	北天昌寺町 153-1	事業営業	123	1995.05.17	遺構・遺物なし
36	北天昌寺町 143-7,143-12	個人住宅	82	1995.06.06～06.07	遺構・遺物なし
37	北天昌寺町 15-3	住宅増築	26	1995.06.14	古代柱穴 2 口
38	北天昌寺町 15-8	駐車場造成	337	1995.10.17～11.21	遺構・遺物なし
39	北天昌寺町 132-34,132-35	教会新築	72	1995.11.06	溝跡 1 条
40	北天昌寺町 142-15,144-10,144-11	事務所新築	39	1996.04.18	柱穴 2 口
41	天昌寺町 224	擁壁新築	24	1996.07.01～07.08	堀跡 1 条
42	北天昌寺町 28-20	駐車場造成	60	1996.09.09	溝跡 1 条
43	北天昌寺町 152-11	住宅新築	137	1996.10.14～10.16	堀跡 1 条
44	北天昌寺町 17-8,9	事務所新築	22	1996.12.11	中世環跡 1 条
45	天昌寺町 7-13	店舗新築	695	1998.06.08～07.03	中世竪穴建物跡 3 棟, 土坑 2 基, 堀跡 2 条, 柱穴 4 口, 近世溝 7 条
46	北天昌寺町 9-3,9-6	住宅改築	68	1998.09.01	遺構・遺物なし
47	大新町 132-6,50	住宅新築	64	1998.11.26	古代以降溝跡 1 条
48	天昌寺町 6-16	庫裡増築	325	1999.04.12～04.16	中近世溝跡 2 条, 柱穴 1 口
49	天昌寺町 417-3	住宅増築	119	1999.06.24～06.28	遺構・遺物なし
50	北天昌寺町 15-12,16-4	駐車場造成	79	2000.03.13～03.14	溝跡 1 条, 柱穴 5 口
51	天昌寺町 247-1,249-2	住宅新築	117	2001.06.08～06.12	中世環跡 1 条, 中世柱穴 2 口
52	北天昌寺町 2-6	事務所新築	47	2003.12.24	遺構・遺物なし
53	北天昌寺町 7	住宅新築	69	2005.04.28	遺構・遺物なし
54	北天昌寺町 142-18	住宅新築	513	2006.06.05～06.13	中世環跡 4 条
55	北天昌寺町 4-19	土地売買	14	2007.03.05	遺構・遺物なし
56	天昌寺町 242-5,245-1	供養塔建設・駐車場整備	2,130	2011.08.22～11.25	縄文期し穴状土坑 7 基, 古代竪穴住居跡 1 棟, 中世竪穴建物跡 21 棟, 土坑 50 基, 中近世獨立柱建物跡 19 棟, 柱穴 613 口, 溝跡 3 条, 近世竪穴跡 3 基, 沢状地形 4 箇所
57(試掘) 58	北天昌寺町 10-1,11-1,12-1,16-2,16-3	宅地造成	2,209	2013.05.27～05.28 2013.10.15～12.26	縄文期し穴状土坑 1 基, 中世獨立柱建物跡 10 棟, 獨立柱列跡 18 列, 横列 1 列, 竪穴建物跡 1 棟, 溝跡 6 条, 江戸時代土坑 1 基, 溝跡 2 条
59	天昌寺町 249-2	店舗併設住宅新築	91	2013.10.09	中世環跡 1 条, 溝跡 1 条, 竪穴建物跡 5 棟, 柱穴 28 口, 土坑 7 基
60	北天昌寺町 17-6,28-20	社屋新築	105	2016.07.04～08.01	古代～中世環跡 2 条, 土坑 2 基, 柱穴 2 口, 柱穴群 1 群
61	北天昌寺町 8-10	店舗建替	316	2017.03.13～03.16	縄文時代埋し穴状土坑 1 基, 古代以降柱穴 1 口
62	天昌寺町 13-1	住宅新築	83	2017.05.26	中近世溝跡 2 条, 竪穴建物跡 6 棟, 柱穴 16 口, 土坑 5 基, カマド状遺構 1 基
63(試掘) 64	天昌寺町 242-5,242-32,245-1,245-6	保育園新築	920	2017.09.06～09.07 2018.04.02～06.22	中世竪穴建物跡 6 棟, 環跡 1 条, 中近世獨立柱建物跡 22 棟, 溝跡 1 条, 土坑 12 基, 柱穴 478 口, 竪穴跡 3 基
65	天昌寺町 247-4,247-5	住宅新築	137	2018.06.06～06.26	中世環跡 1 条, 近世柱穴 8 口

第 2 表 里館遺跡調査成果一覧②

### 3. 第64次調査

**調査経過** 当該区域について事業主体者である社会福祉法人天昌寺福祉会から、保育園建設に係る事前協議があり、平成29年6月29日付けで発掘届が提出された。これを受けて同年9月6日～7日にかけてトレンチによる試掘調査を行った。その結果、計画区域全域において中世の竪穴建物跡や柱穴、溝跡などが確認され、工事着手前の緊急発掘調査が必要となった。平成30年4月2日、社会福祉法人天昌寺福祉会と盛岡市教育委員会教育長との間で「埋蔵文化財に関する協定書」を締結し、遺跡の学び館が調査を行った。調査期間は平成30年4月3日～6月22日、調査面積は920㎡である。

### 4. 遺構の検出状況

第64次調査区は遺跡の南端に位置し、北から南にかけての緩やかな斜面となっている。標高は130m前後である。遺構は黒褐色シルト～暗褐色砂質土層上面で検出した。

**検出遺構** 確認された遺構は、中世の竪穴建物跡5棟、堀跡1条、中世～近世の掘立柱建物跡22棟、柱列跡8列、土坑12基、柱穴478口、近世の竪穴状遺構3棟、溝跡1条、である。

### 5. 中世の遺構

**竪穴建物跡** 竪穴建物跡は調査区全域で確認している。出入り口部分は南北のどちらかに付けられている例が多い。また、調査区西側で確認したSI323～325は重複関係から少なくとも2時期に渡り、竪穴建物跡が造り替えられている。

遺構番号	位置	規模 (m)		主軸方向	重複関係	埋土	柱穴 (深さ : m)	出土遺物
		一辺	深さ					
SI323	I6-R24	2.86	0.04～0.40	N3°W	SI324を切る	黒褐色土	P1-0.70, P2-0.42, P3-0.32, P4-0.16, P5-0.20, P6-0.22, P7-0.54, P8-0.58	
SI324	I6-Q25	3.38	0.04～0.26	N2°W	SI323に切られる, SI325を切る	黒褐色土	P1-0.40, P2-0.62, P3-0.37, P4-0.36, P5-0.47, P6-0.58, P7-0.36, P8-0.25, P9-0.31	
SI325	I6-P25	3.73	0.05～0.19	N14°E	SI324に切られる	黒褐色土	P1-0.62, P2-0.31, P3-0.55, P4-0.35, P5-0.22, P6-0.21, P7-0.40, P8-0.60, P9-0.44, P10-0.44, P11-0.53	
SI326	H6-B1	4.41～6.52	0.04～0.12	N3°E	SR326～328に切られる	黒褐色土	P1-0.18, P2-0.08, P3-0.22, P4-0.21, P5-0.06, P6-0.56, P7-0.25, P8-0.39, P9-0.39, P10-0.30, P11-0.28, P12-0.12, P13-0.25, P14-0.18, P15-0.06, P16-0.04, P17-0.21, P18-0.40, P19-0.38	かわらけ 鉄釘 火打石
SI327	H6-G18	3.1	0.16～0.25	N2°W	-	黒褐色土	P1-0.06, P2-0.06, P3-0.26, P4-0.28, P5-0.21,	
SI328	H6-H4	2.52～3.60	0.12～0.38	N2°W	-	黒褐色土	P1-0.40, P2-0.14, P3-0.20, P4-0.48	

第3表 竪穴建物跡一覧

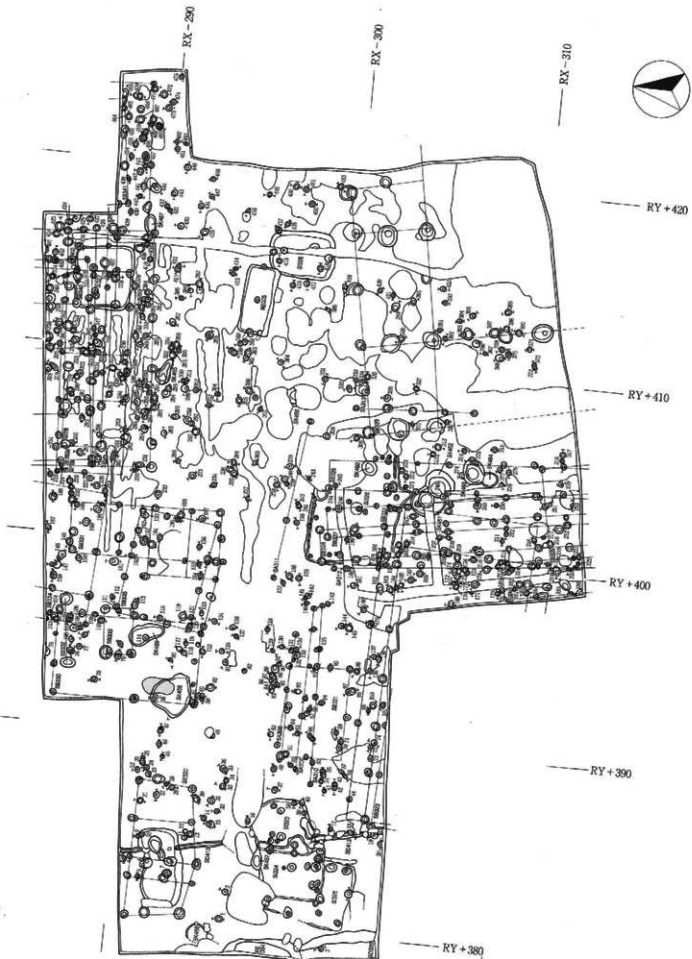
遺構番号	位置	平面形	規模 (m)			備考
			長軸	短軸	深さ	
RE004	I6-Q24	方形か	3.80	0.70以上	0.42	SD300を切る。
RE005	H6-G23	長方形	3.65	1.59	1.22	

第4表 竪穴跡一覧



第4図 第64次調査区全体図

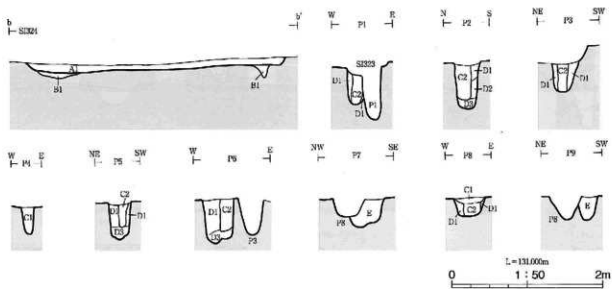
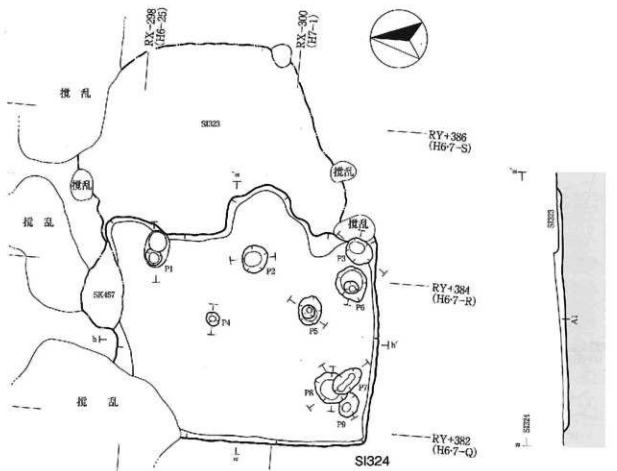
0 1 : 200 5m



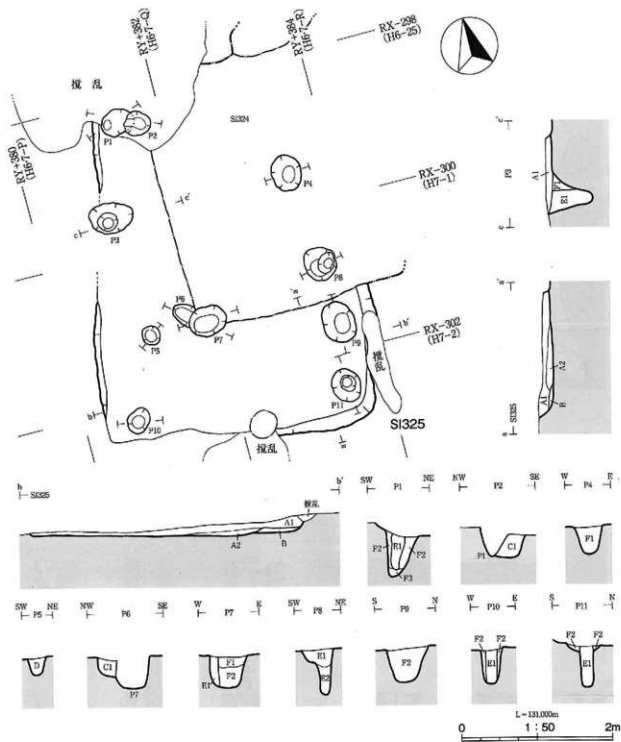
第5図 第64次調査区遺構配置図



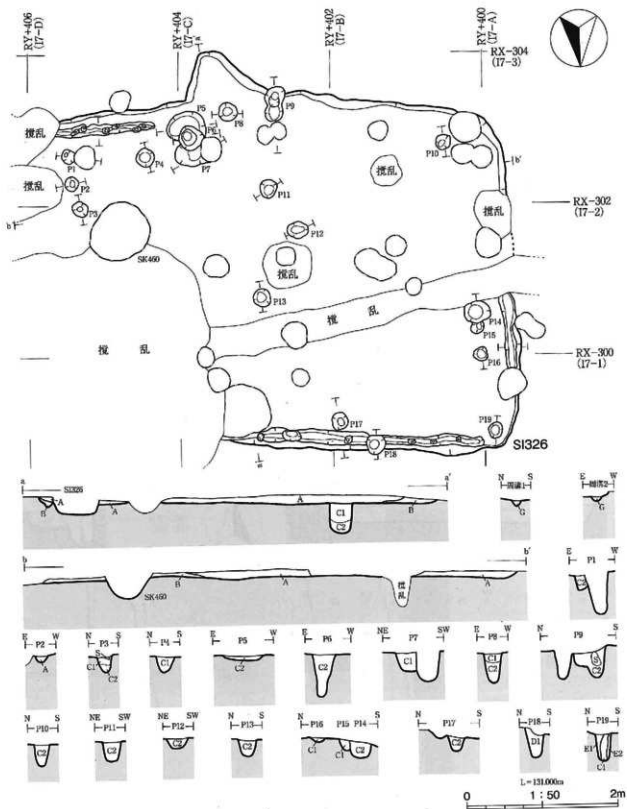




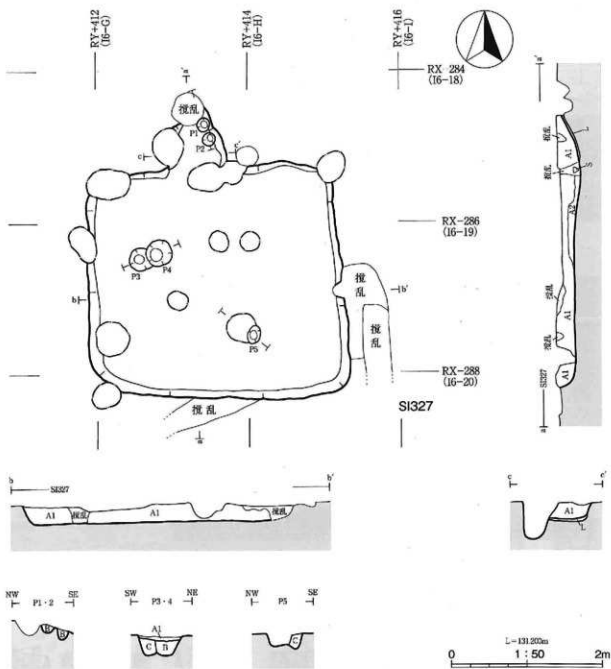
第 7 圖 SI324 雙穴建物跡



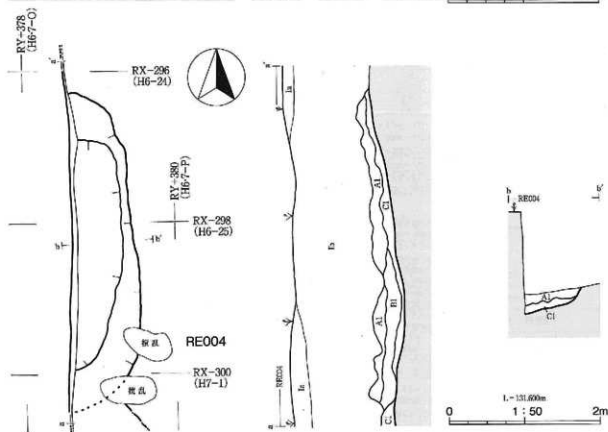
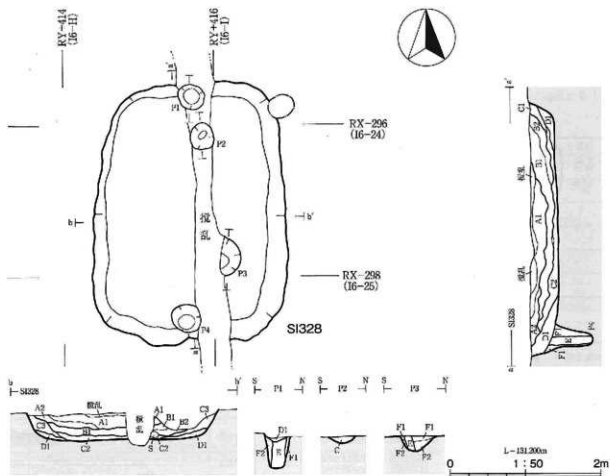
第8圖 SI325 豎穴建物跡



第9圖 SI326 竅穴建物跡



第10圖 SI327 竪穴建物跡



第 11 圖 SI328 豎穴建物跡, RE004 豎穴跡



## 6. 中～近世の遺構

柱 列 跡 柱列跡は6棟確認された。埋土は黒色土が主体となるものが多い。規模等については第3表にまとめた。

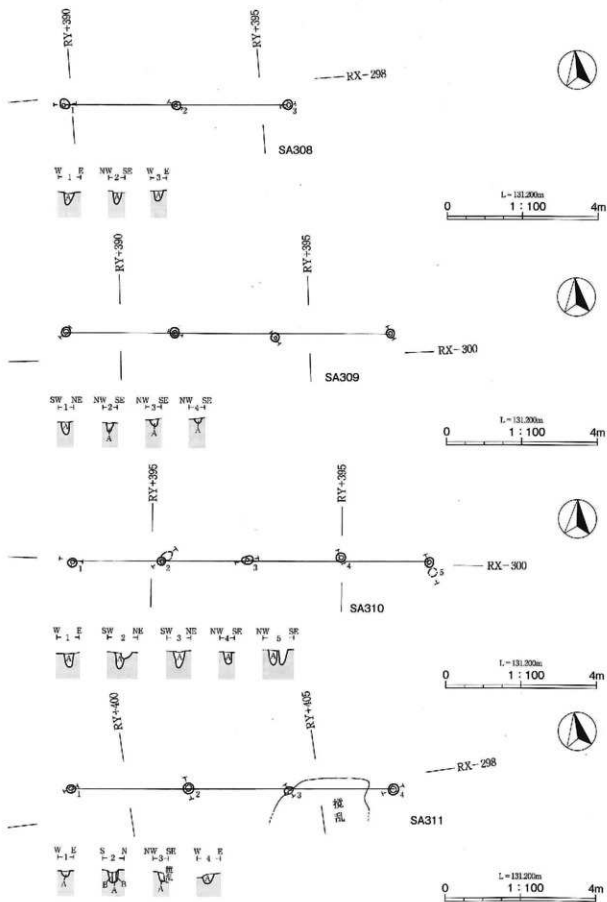
掘立柱建物跡 掘立柱建物跡は22棟確認された。埋土は黒色土を主体とするものが多い。調査区北部に遺構が集中している。規模等については第4表にまとめた。

遺構名	桁行	棟方向	主軸方向	柱間寸法	柱穴規模	時期	出土遺物
SA308	2間 (595cm)	E4'S	東西棟	9尺7寸 (595cm)	径 25～30cm 深 22～38cm	15～16世紀	
SA309	3間 (855cm)	E1'S	東西棟	8尺9寸～9尺9寸 (270cm～300cm)	径 25～30cm 深 12～38cm	15～16世紀	
SA310	4間 (940cm)	ほぼ東西	東西棟	7尺4寸～8尺3寸 (225cm～250cm)	径 25～30cm 深 34～46cm	15～16世紀	
SA311	3間 (850cm)	E9'S	東西棟	8尺9寸～10尺2寸 (270cm～310cm)	径 25～30cm 深 18～35cm	15～16世紀	
SA312	6間 (1265cm)	N7'W	南北棟	6尺4寸～7尺8寸 (195cm～235cm)	径 30～50cm 深 11～41cm	15～16世紀	
SA313	4間 (620cm)	N3'W	南北棟	4尺1寸～5尺9寸 (125cm～180cm)	径 25～40cm 深 14～57cm	15～16世紀	

第5表 柱列跡一覧

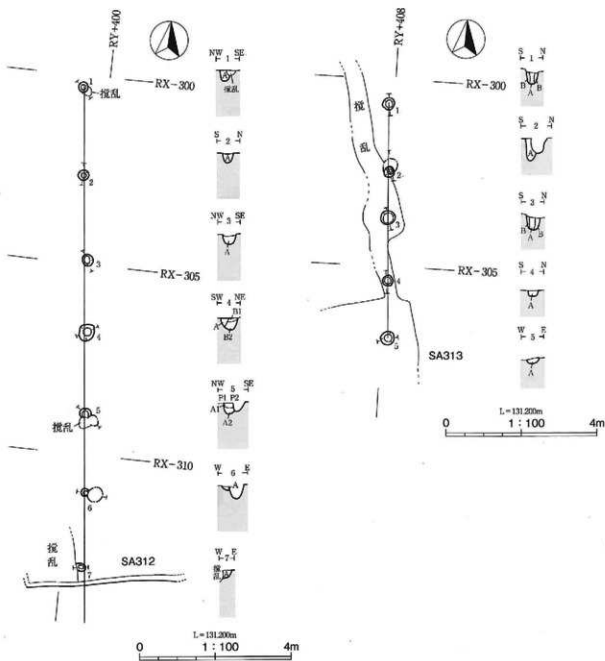
遺構名	規 模		棟方向	主軸方向	柱間寸法		柱穴規模	時期	出土遺物	
	桁行	梁間			桁行	梁間				
S8320	4間 (710cm)	2間 (350cm)	-	ほぼ東西	東西棟	3尺3寸～7尺3寸 (100cm～220cm)	3尺3寸～10尺2寸 (100cm～310cm)	径 30～60cm 深 11～57cm	16世紀	肥前系銅銭 磁石
S8321	3間 (480cm)	2間 (310cm)	-	ほぼ東西	東西棟	7尺4寸～8尺3寸 (225cm～250cm)	4尺6寸～5尺8寸 (140cm～175cm)	径 30～40cm 深 18～48cm	15～16世紀	
S8322	7間 (1665cm)	3間 (710cm)	2面庇 北 (1640×100cm) 南 (80以上×110cm)	E4'S	東西棟	3尺6寸～11尺4寸 (110cm～345cm)	7尺3寸～8尺3寸 (220cm～250cm)	径 25～65cm 深 19～65cm	15～16世紀	磁石
S8323	3間以上 (540cm以上)	1間以上 (70cm以上)	不明	E3'S	東西棟	8尺9寸～9尺2寸 (270cm～280cm)	2尺3寸以上 (70cm以上)	径 30～45cm 深 39～57cm	15～16世紀	
S8324	3間以上 (420cm以上)	1間 (200cm)	不明	N10'W	南北棟	6尺6寸～6尺9寸 (200cm～210cm)	6尺3寸～6尺6寸 (190cm～200cm)	径 30～65cm 深 22～36cm	15～16世紀	
S8325	3間 (535cm)	1間以上 (185cm以上)	不明	W11'S	東西棟	4尺6寸～6尺6寸 (140cm～200cm)	6尺1寸以上 (185cm以上)	径 25～35cm 深 18～29cm	15～16世紀	
S8326	9間以上 (1345cm以上)	1間 (165cm)	-	N10'W	南北棟	5尺1寸～6尺1寸 (155cm～185cm)	5尺6寸 (170cm)	径 25～45cm 深 25～48cm	16世紀以降	
S8327	9間以上 (1320cm以上)	1間 (150cm)	-	N10'W	南北棟	5尺1寸～6尺1寸 (155cm～185cm)	5尺 (150cm)	径 25～40cm 深 17～61cm	16世紀以降	
S8328	9間以上 (1310cm以上)	1間 (150cm)	-	N4'W	南北棟	4尺8寸～5尺4寸 (145cm～165cm)	5尺 (150cm)	径 25～40cm 深 14～53cm	16世紀以降	
S8329	6間 (1680cm)	3間 (595cm)	2面庇 北 (1285×380cm) 南 兼定 (1630×320cm)	W9'S	東西棟	6尺6寸～11尺1寸 (200cm～335cm)	6尺3寸～7尺1寸 (190cm～215cm)	径 60～120cm 深 7～87cm	17世紀前半	古唐津丸皿 雲水波置(古) 銅銭鉄製品
S8330	3間 (770cm)	3間 (435cm)	-	ほぼ南北	南北棟	6尺3寸～10尺8寸 (180cm～320cm)	4尺5寸～6尺3寸 (135cm～180cm)	径 25～45cm 深 11～57cm	15～16世紀	
S8331	4間 (795cm)	2間 (255cm)	1面庇 380×100cm	ほぼ南北	南北棟	5尺～6尺6寸 (150cm～200cm)	2尺5寸～5尺9寸 (75cm～180cm)	径 25～65cm 深 11～67cm	16世紀	銅銭
S8332	なし	1間 (335cm)	-	W5'S	東西棟	11尺1寸 (335cm)	-	径 65～80cm 深 28～36cm	18世紀	肥前京焼皿皿
S8333	1間 (255cm)	1間 (165cm)	-	ほぼ東西	東西棟	7尺6寸～8尺4寸 (230cm～255cm)	4尺6寸～5尺4寸 (140cm～165cm)	径 35～65cm 深 25～52cm	16世紀	
S8334	3間 (690cm)	2間以上 (320cm以上)	-	E4'S	東西棟	5尺3寸～10尺6寸 (160cm～320cm)	6尺4寸～6尺9寸 (195cm～210cm)	径 20～45cm 深 10～48cm	15～16世紀	球状鉄製品
S8335	3間 (545cm)	3間 (385cm)	1面庇 380×85cm	E9'S	東西棟	5尺8寸～6尺9寸 (175cm～210cm)	3尺～5尺9寸 (90cm～180cm)	径 25～45cm 深 14～56cm	15～16世紀	
S8336	5間 (1500cm)	2間以上 (240cm以上)	不明	W7'S	東西棟	5尺6寸～8尺6寸 (170cm～260cm)	4尺5寸～6尺6寸 (135cm～205cm)	径 30～65cm 深 15～41cm	15～16世紀	
S8337	4間 (900cm)	2間 (350cm)	1面庇 190×280cm	W2'S	東西棟	6尺3寸～9尺2寸 (190cm～280cm)	4尺5寸～7尺1寸 (135cm～215cm)	径 20～55cm 深 17～62cm	15～16世紀	
S8338	6間以上 (1250cm以上)	2間以上 (340cm以上)	不明	W4'S	東西棟	6尺6寸～7尺6寸 (200cm～230cm)	6尺6寸 (200cm)	径 28～30cm 深 13～56cm	15～16世紀	
S8339	6間 (1350cm)	3間以上 (575cm以上)	不明	W4'S	東西棟	4尺3寸～8尺9寸 (130cm～270cm)	5尺1寸～10尺6寸 (155cm～300cm)	径 20～55cm 深 20～48cm	15～16世紀	
S8340	5間 (1165cm)	2間以上 (540cm以上)	2面庇 東 (810×160cm) 西 (360以上×180cm)	W2'S	東西棟	5尺9寸～6尺3寸 (180cm～190cm)	6尺6寸 (200cm)	径 30～55cm 深 15～67cm	15～16世紀	
S8341	3間 (540cm)	1間以上 (55cm以上)	不明	W8'S	東西棟	5尺6寸～6尺6寸 (170cm～200cm)	1尺8寸以上 (55cm以上)	径 30～45cm 深 16～45cm	15～16世紀	

第6表 掘立柱建物跡一覧

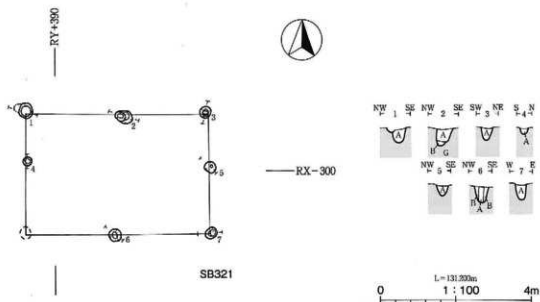
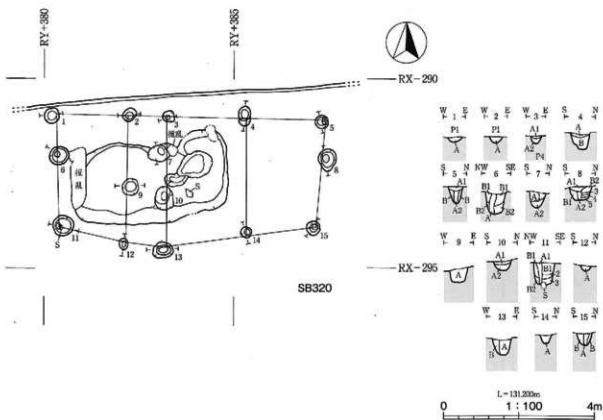


第13圖 SA308～311柱列跡

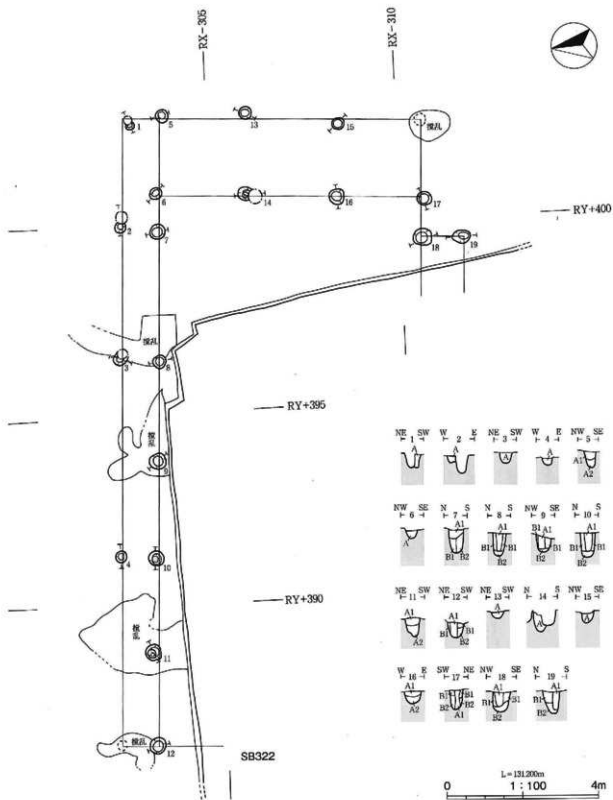




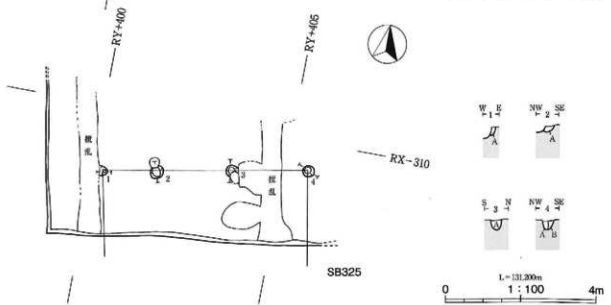
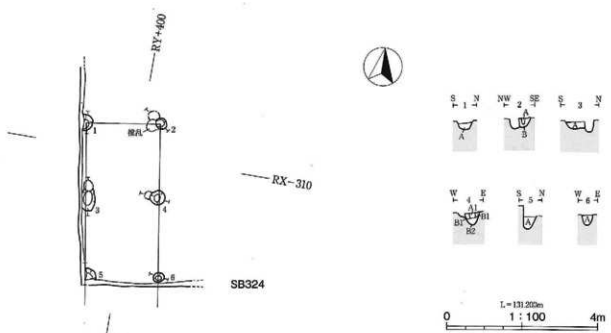
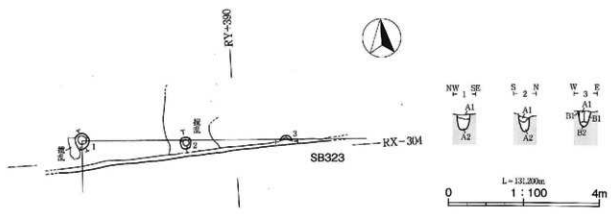
第 14 图 SA312 · 313 柱列跡



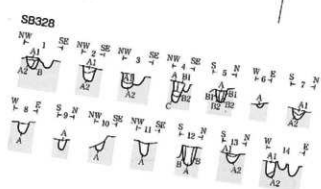
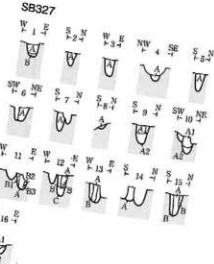
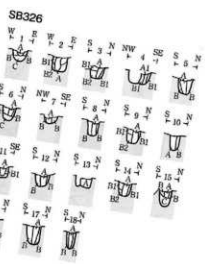
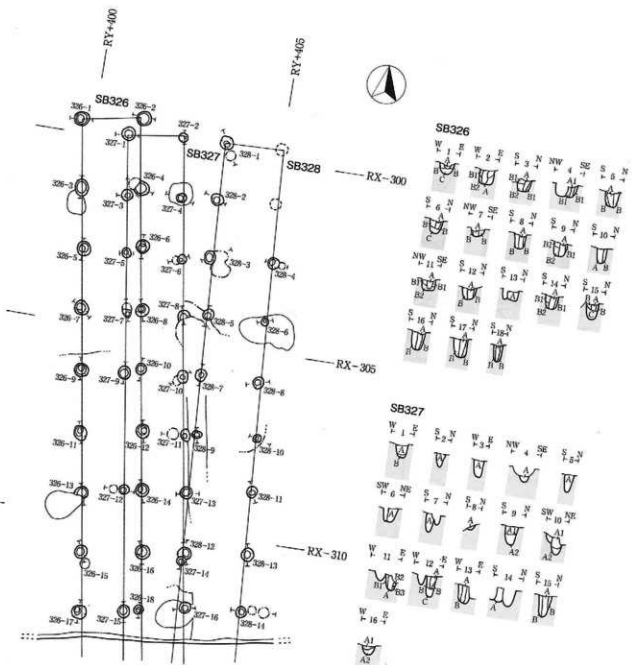
第 15 图 SB320・321 掘立柱建物跡



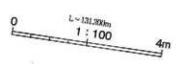
第 16 圖 SB322 獨立柱建物跡

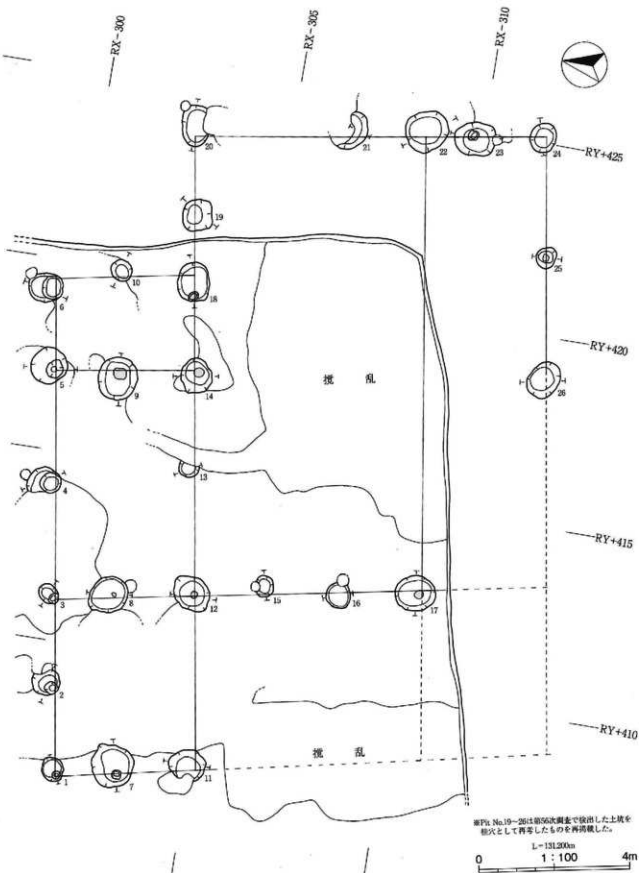


第 17 圖 SB323 ~ 325 掘立柱建物跡

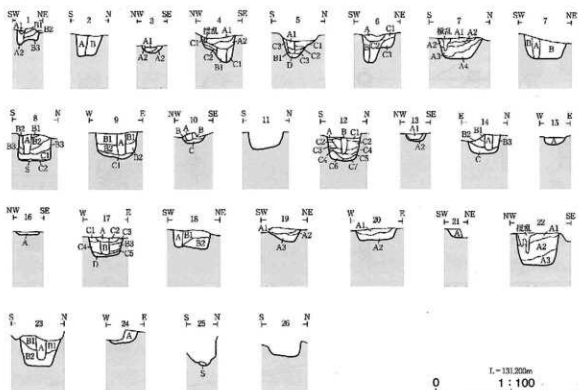


第 18 圖 SB326 ~ 328 掘立柱建物跡

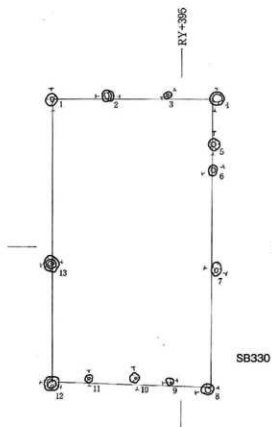




第19図 SB329 掘立柱建物跡 (1)

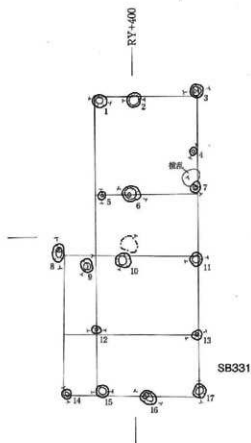
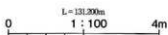
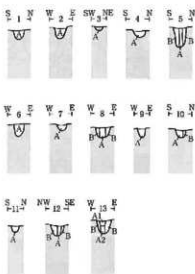


第 20 圖 SB329 獨立柱建物跡 (2)



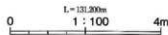
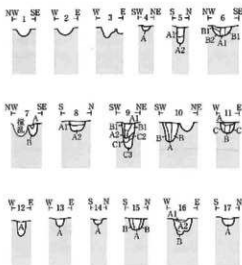
RX-290

SB330



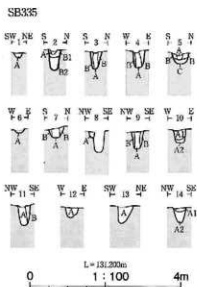
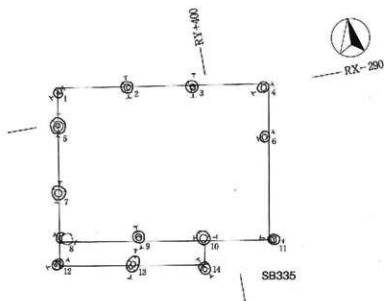
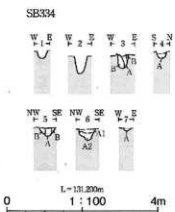
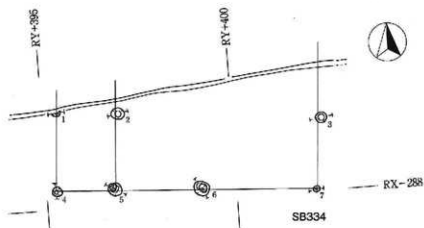
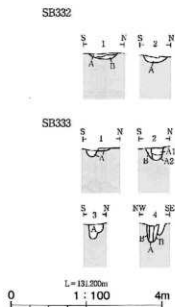
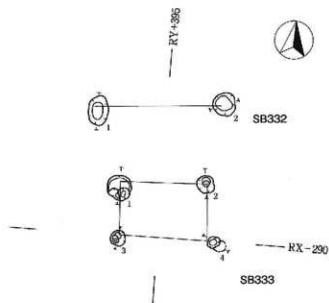
RX-290

SB331

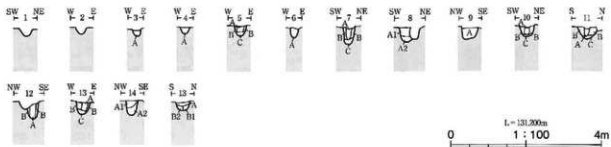
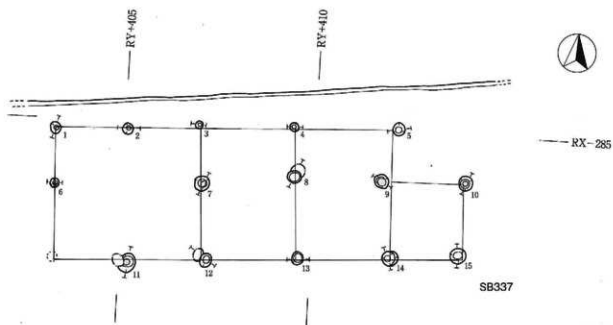
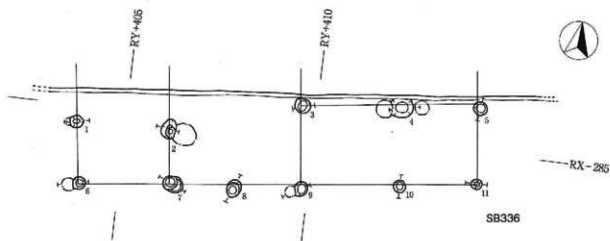


第21圖 SB330・331 掘立柱建物跡

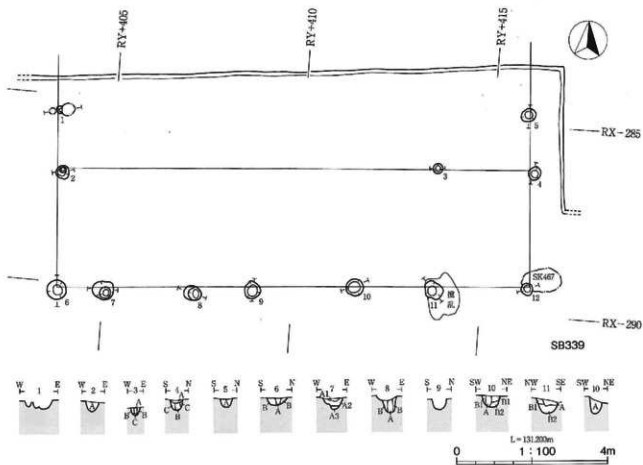
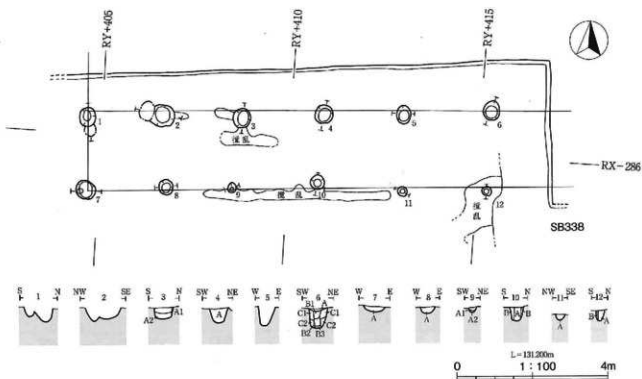




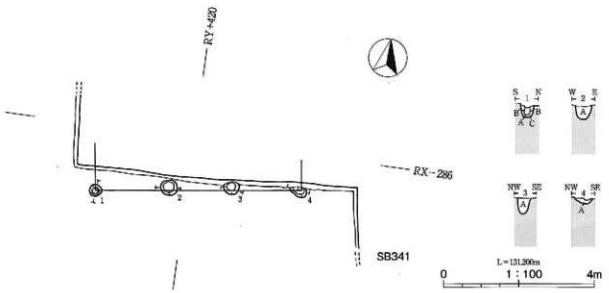
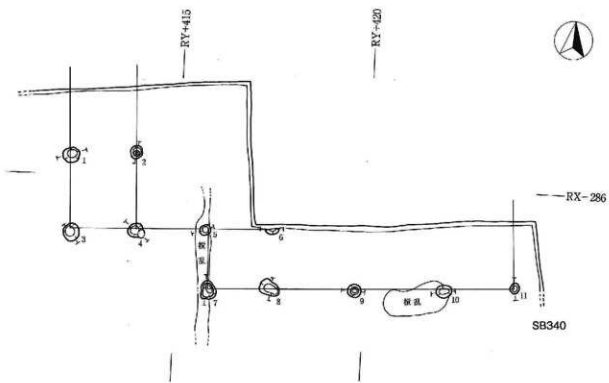
第 22 圖 SB332 ~ 335 掘立柱遺物跡



第 23 圖 SB336・337 掘立柱建物跡



第24圖 SB338・339 掘立柱建物跡



第 25 図 SB340・341 掘立柱建物跡

溝 跡 中世の溝跡が2条検出された。SD300は第1・29次調査で確認されている南北に並び、自輪VIを区画する堀跡と一連のものである。規模等については第7表にまとめた。

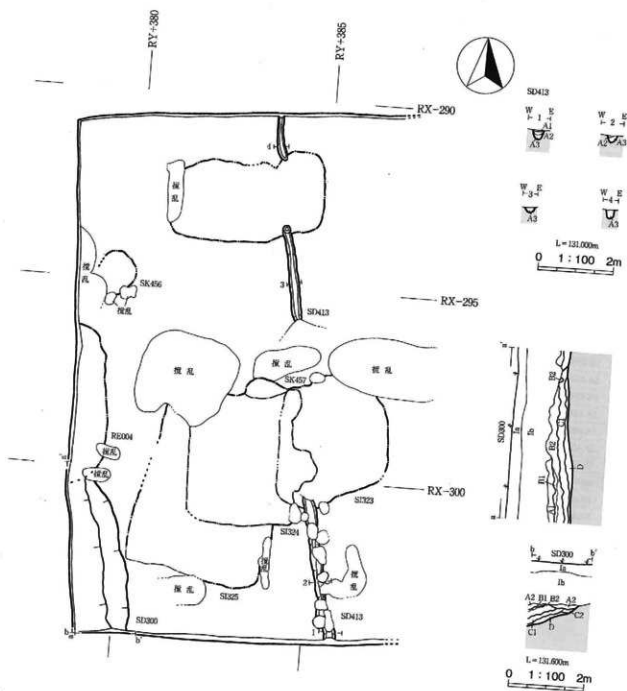
遺構番号	位置	規模 (m)			備考
		長軸	短軸	深さ	
SD 300	H7-O1	4.0以上	1.5以上	0.63以上	窯研堀か
SD 413	H6-Q21	13.8以上	0.20～0.25	0.11～0.25	

第7表 溝跡一覧

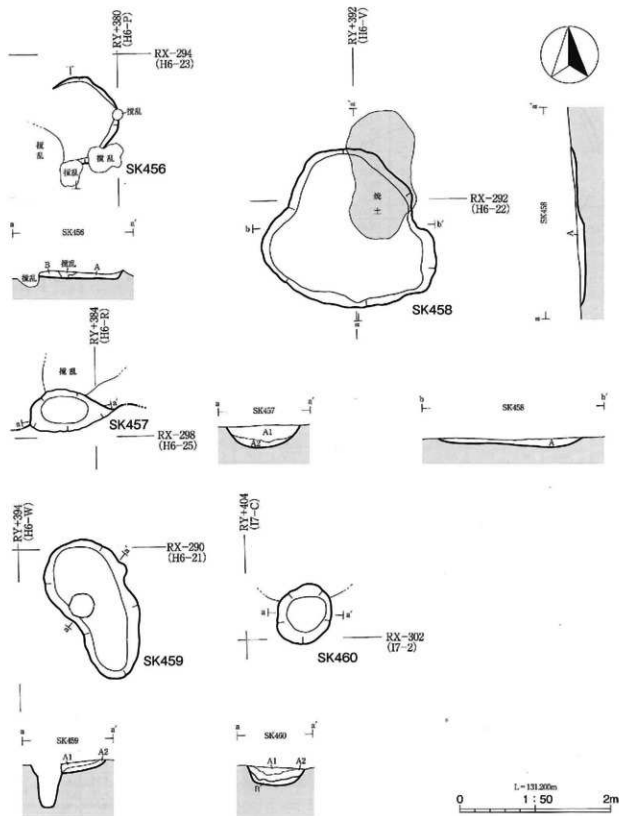
土 坑 土坑は12基確認した。いずれも円形または楕円形で、埋土は黒褐色土を主体とするものが多い。出土遺物が無いため時期については決め手に欠くが、他の遺構の埋土等と比較すると中世～近世に範囲に入ると思われる。規模等については下記の表（第8表）にまとめた。

遺構番号	位置	平面形	規模 (m)			備考
			長軸	短軸	深さ	
SK456	H6-O23	不明	1.12	0.90以上	0.11	
SK457	H6-Q24	楕円形	1.13	0.54	0.31	SI324を切る。
SK458	H6-U21	不整楕円形	2.30	2.08	0.20	
SK459	H6-W21	不整楕円形	1.90	0.86	0.17	
SK460	I7-C1	円形	0.80	0.72	0.31	
SK461	I7-B3	円形	1.87	1.64	0.47	SK462に切られる。
SK462	I7-B3	円形	1.54	1.48	0.33	SK461を切る。
SK463	I7-C4	円形	1.40	1.17	0.41	SK464を切る。
SK464	I7-C4	円形	0.77以上	0.76	0.20	SK463に切られる。
SK465	I6-E21	不整楕円形	1.47	0.62	0.16	
SK466	I6-D24	不明	0.88	0.52以上	0.72	
SK467	I6-I20	楕円形	1.06	0.62	0.26	

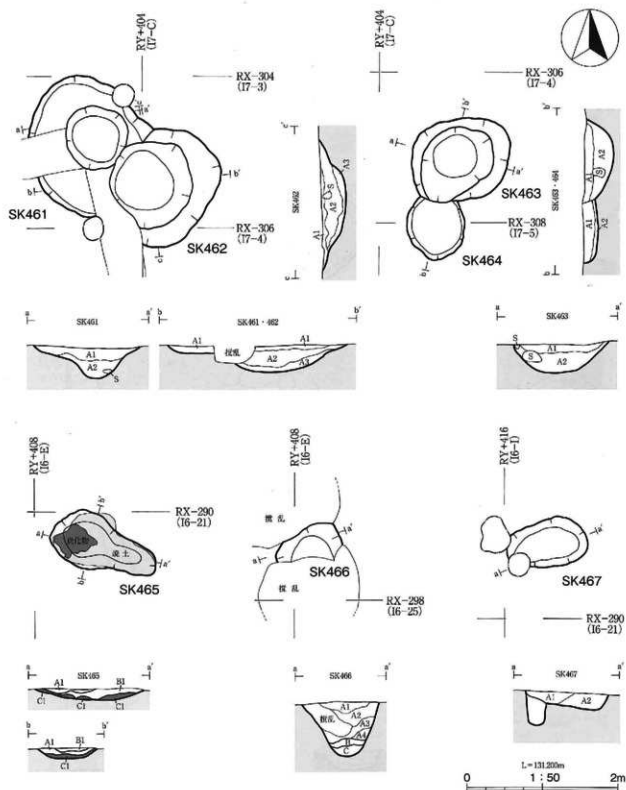
第8表 土坑一覧



第26図 SD300・413 清跡



第 27 図 SK456 ~ 460 土坑



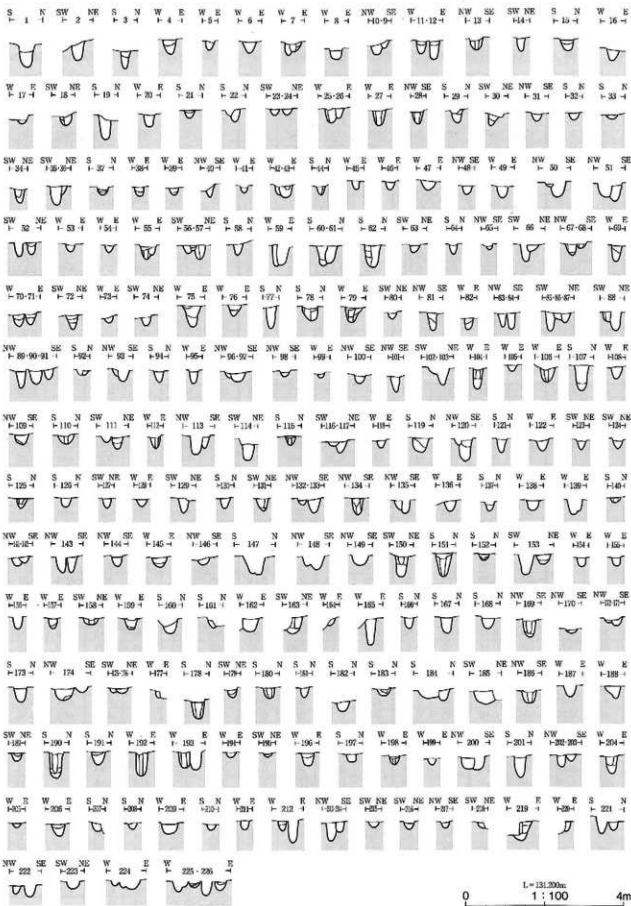
第28圖 SK461 ~ 467土坑



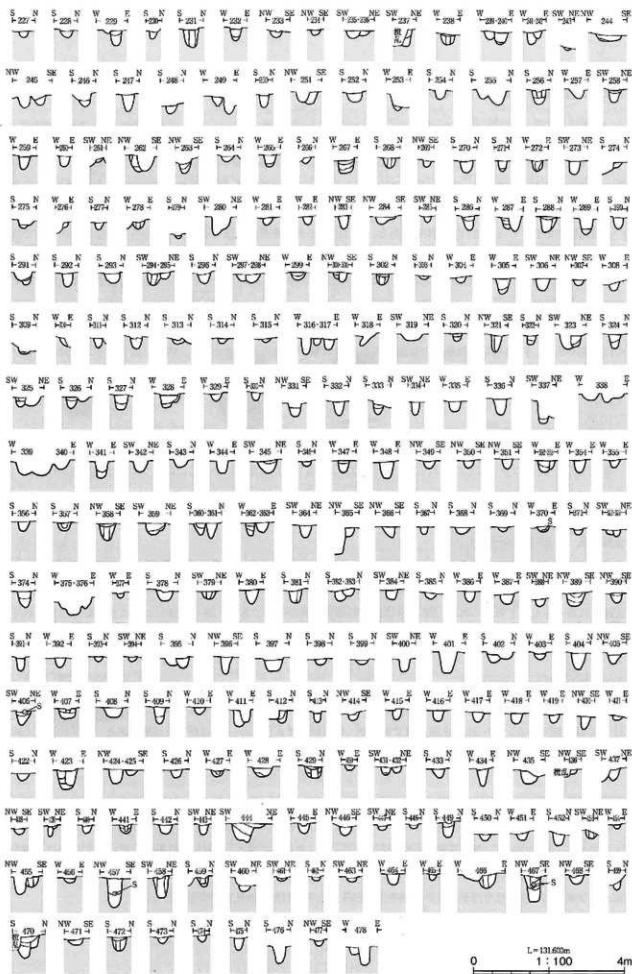
柱 穴 群 柱穴は478口検出された。土は黒褐色のものが多く、各ビットの深さについては下記の表にまとめた。

No	深さ (m)	No	深さ (m)	No	深さ (m)	No	深さ (m)	No	深さ (m)	No	深さ (m)	No	深さ (m)	No	深さ (m)	No	深さ (m)
1	0.54	61	0.45	121	0.37	181	0.24	241	0.33	301	0.19	361	0.42	421	0.13		
2	0.49	62	0.57	122	0.28	182	0.23	242	0.16	302	0.31	362	0.33	422	0.21		
3	0.43	63	0.20	123	0.24	183	0.20	243	0.11	303	0.09	363	0.22	423	0.53		
4	0.40	64	0.27	124	0.26	184	0.29	244	0.18	304	0.35	364	0.35	424	0.34		
5	0.21	65	0.14	125	0.26	185	0.33	245	0.22	305	0.38	365	0.24	425	0.16		
6	0.28	66	0.16	126	0.25	186	0.32	246	0.31	306	0.22	366	0.27	426	0.22		
7	0.36	67	0.32	127	0.26	187	0.31	247	0.41	307	0.13	367	0.23	427	0.17		
8	0.28	68	0.17	128	0.21	188	0.30	248	0.21	308	0.23	368	0.15	428	0.21		
9	0.26	69	0.42	129	0.39	189	0.19	249	0.26	309	0.13	369	0.10	429	0.30		
10	0.20	70	0.29	130	0.28	190	0.65	250	0.33	310	0.22	370	0.11	430	0.13		
11	0.36	71	0.28	131	0.31	191	0.33	251	0.29	311	0.25	371	0.19	431	0.20		
12	0.51	72	0.36	132	0.17	192	0.60	252	0.23	312	0.28	372	0.10	432	0.17		
13	0.32	73	0.19	133	0.38	193	0.42	253	0.12	313	0.26	373	0.15	433	0.25		
14	0.34	74	0.25	134	0.39	194	0.14	254	0.22	314	0.16	374	0.40	434	0.43		
15	0.31	75	0.55	135	0.37	195	0.06	255	0.21	315	0.12	375	0.15	435	0.33		
16	0.27	76	0.29	136	0.27	196	0.31	256	0.38	316	0.21	376	0.31	436	0.32		
17	0.18	77	0.57	137	0.22	197	0.21	257	0.22	317	0.31	377	0.11	437	0.31		
18	0.30	78	0.35	138	0.23	198	0.22	258	0.34	318	0.30	378	0.29	438	0.12		
19	0.61	79	0.42	139	0.40	199	0.16	259	0.34	319	0.18	379	0.20	439	0.31		
20	0.30	80	0.19	140	0.12	200	0.28	260	0.27	320	0.20	380	0.37	440	0.22		
21	0.19	81	0.45	141	0.26	201	0.55	261	0.06	321	0.45	381	0.37	441	0.23		
22	0.33	82	0.32	142	0.14	202	0.33	262	0.43	322	0.25	382	0.26	442	0.23		
23	0.19	83	0.39	143	0.37	203	0.13	263	0.36	323	0.28	383	0.17	443	0.29		
24	0.14	84	0.45	144	0.26	204	0.47	264	0.19	324	0.39	384	0.29	444	0.50		
25	0.35	85	0.49	145	0.26	205	0.13	265	0.31	325	0.24	385	0.19	445	0.27		
26	0.22	86	0.22	146	0.18	206	0.32	266	0.19	326	0.32	386	0.25	446	0.28		
27	0.39	87	0.25	147	0.50	207	0.25	267	0.32	327	0.41	387	0.22	447	0.15		
28	0.35	88	0.22	148	0.34	208	0.15	268	0.27	328	0.41	388	0.16	448	0.12		
29	0.38	89	0.48	149	0.23	209	0.27	269	0.20	329	0.24	389	0.38	449	0.38		
30	0.31	90	0.39	150	0.53	210	0.17	270	0.34	330	0.24	390	0.27	450	0.17		
31	0.22	91	0.30	151	0.60	211	0.21	271	0.24	331	0.36	391	0.35	451	0.27		
32	0.19	92	0.07	152	0.15	212	0.28	272	0.28	332	0.42	392	0.25	452	0.35		
33	0.12	93	0.20	153	0.23	213	0.23	273	0.35	333	0.36	393	0.11	453	0.20		
34	0.38	94	0.30	154	0.22	214	0.46	274	0.14	334	0.35	394	0.10	454	0.11		
35	0.46	95	0.35	155	0.22	215	0.16	275	0.19	335	0.30	395	0.24	455	0.27		
36	0.22	96	0.25	156	0.32	216	0.21	276	0.12	336	0.46	396	0.43	456	0.17		
37	0.16	97	0.18	157	0.24	217	0.17	277	0.15	337	0.56	397	0.37	457	0.76		
38	0.21	98	0.12	158	0.15	218	0.17	278	0.21	338	0.26	398	0.17	458	0.59		
39	0.18	99	0.12	159	0.29	219	0.47	279	0.13	339	0.36	399	0.13	459	0.28		
40	0.33	100	0.16	160	0.40	220	0.24	280	0.49	340	0.21	400	0.31	460	0.18		
41	0.18	101	0.40	161	0.26	221	0.22	281	0.22	341	0.45	401	0.53	461	0.11		
42	0.27	102	0.15	162	0.35	222	0.32	282	0.19	342	0.30	402	0.25	462	0.11		
43	0.29	103	0.40	163	0.43	223	0.17	283	0.31	343	0.19	403	0.18	463	0.15		
44	0.24	104	0.52	164	0.16	224	0.15	284	0.23	344	0.35	404	0.45	464	0.32		
45	0.20	105	0.16	165	0.57	225	0.18	285	0.16	345	0.34	405	0.27	465	0.16		
46	0.22	106	0.37	166	0.27	226	0.23	286	0.37	346	0.17	406	0.37	466	0.38		
47	0.27	107	0.63	167	0.41	227	0.17	287	0.29	347	0.32	407	0.24	467	0.72		
48	0.23	108	0.31	168	0.30	228	0.18	288	0.43	348	0.44	408	0.25	468	0.24		
49	0.29	109	0.30	169	0.44	229	0.39	289	0.40	349	0.22	409	0.44	469	0.24		
50	0.09	110	0.20	170	0.06	230	0.21	290	0.29	350	0.18	410	0.15	470	0.60		
51	0.45	111	0.32	171	0.23	231	0.52	291	0.33	351	0.25	411	0.42	471	0.17		
52	0.29	112	0.30	172	0.11	232	0.34	292	0.32	352	0.34	412	0.29	472	0.37		
53	0.19	113	0.32	173	0.35	233	0.23	293	0.27	353	0.13	413	0.26	473	0.18		
54	0.17	114	0.57	174	0.35	234	0.16	294	0.29	354	0.36	414	0.20	474	0.20		
55	0.38	115	0.19	175	0.11	235	0.22	295	0.17	355	0.22	415	0.26	475	0.35		
56	0.21	116	0.12	176	0.13	236	0.09	296	0.26	356	0.24	416	0.28	476	0.45		
57	0.32	117	0.36	177	0.23	237	0.44	297	0.23	357	0.21	417	0.26	477	0.15		
58	0.29	118	0.20	178	0.47	238	0.27	298	0.23	358	0.44	418	0.25	478	0.19		
59	0.53	119	0.35	179	0.23	239	0.21	299	0.20	359	0.30	419	0.26				
60	0.49	120	0.55	180	0.28	240	0.29	300	0.11	360	0.32	420	0.35				

第9表 ビット計測一覧



第29図 ピット断面図(1)



第30図 ヒット断面図(2)

## 10. 出土遺物 (第31～33図)

### 陶磁器 (第31図1～20)

第31図1は肥前系緑釉皿の底部である。見こみの軸を同心円状に掻き取りしている。2は相馬雅物小碗の底部である。手びねりによって成形し、内面に駒の鉄絵が描かれている。底裏には「金重」の刻印が施される。3は古唐津の丸皿である。高台が摩滅によって外崩れ状となっている。4は肥前の京焼鳳皿の底部である。5は瀬戸美濃大窯I期の灰釉丸皿である。6は鉄釉の壺の体部である。7は国産の青磁華瓶の底部である。底裏から孔を穿ち、内部まで施釉されている。8は瀬戸美濃大窯I期の灰釉皿の底部である。9は中国産染付皿の底部である。高台部分に砂目が残る。10は中国産染付けの口縁部片である。11は瀬戸美濃の鉄釉天目茶碗の体部である。12は肥前京焼鳳皿の底部である。高台は露胎されている。13は肥前の青磁皿の底部である、内面中央の軸が掻き取りされている。14は肥前染付草木文の碗である。底裏に「大明年製」の銘がある。15は国産染付山水文の角鉢片である。16は肥前の青磁華瓶の口縁部である。17は信楽の鉄釉壺の体部である。18は瀬戸美濃のすり鉢である。内面には7～8本一対の柵目が施されている。19は岩手焼の草花文茶碗である。底裏に「岩手焼」の銘が只須で書かれている。20は灰釉の土人形である。中は中空で背中部分に焼成前に孔が穿かれている。

### 土器 (第31図21～23)

第31図21・22はロクロ成形のかわらけである。21は体部下半から底部にかけて回転ヘラケズリの調整が残っている。23は須恵器の坏である。口縁下に突帯があり、古墳時代中～後期のものとみられる。

### 金属製品 (第32図24～29)

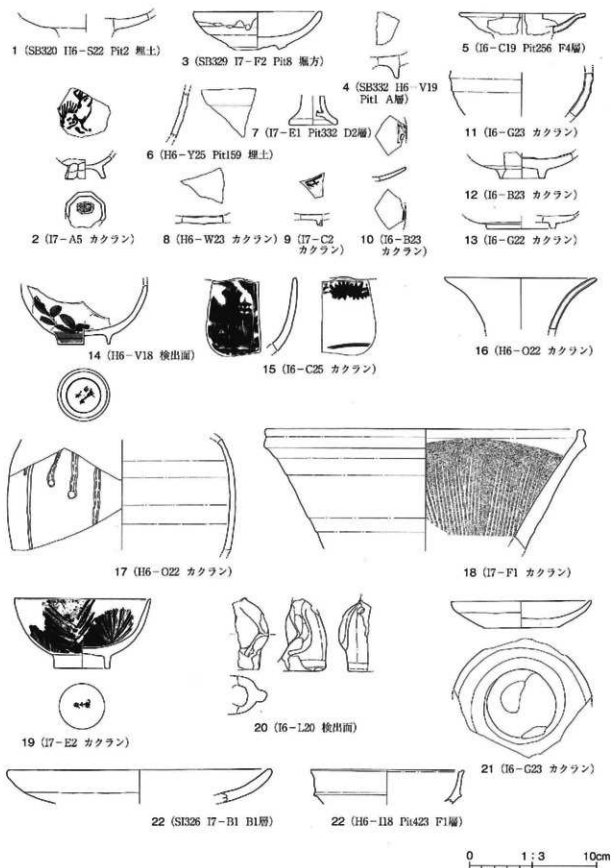
第32図24・25は鉄製の角釘である。26は梅花をモチーフとした銅製の装飾品の一部である。三重構造の留板を裏側より釘で支えている。27は球状の鉄製品である。細い軸状の痕跡が認められるため、棒状の工具ないし装飾品の先端部分にあたるものと考えられる。28・29は銅製の羅字煙管の吸口である。28の表面には麻文様の彫金が施されている。29は肩幅が大きく膨らむ形状を持つ。

### 古銭 (第32図30～35)

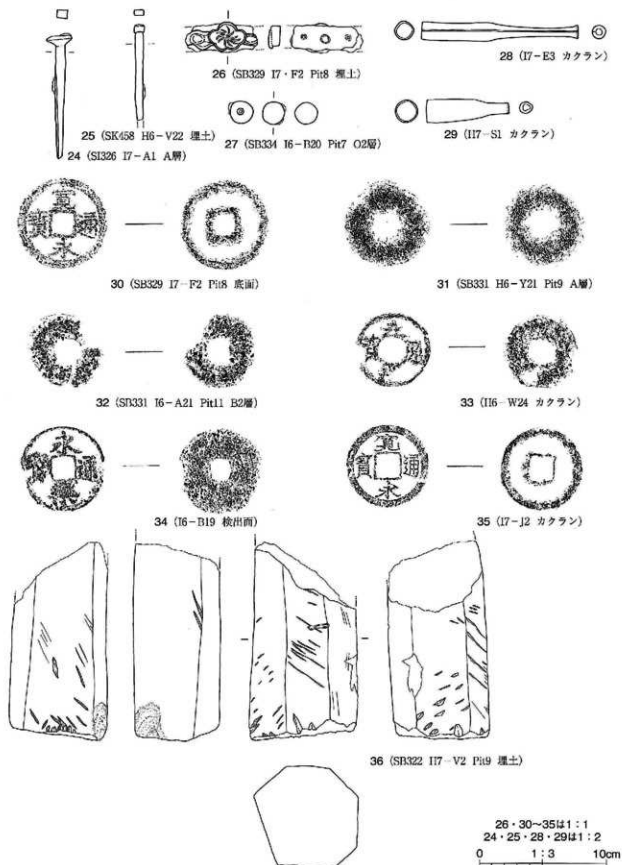
第32図30は「寶」字の18画と19画が接する、所謂ス寶であることから、古寛永通寶(寛永13年初鑄)である。31・32は鋳銭である。33・34は永楽通寶であるが、模鑄銭と考えられる。35は新寛永通寶である。全体的に硬く鋭い書体からV期(1736～1745年)に相当すると考えられる(川根正教2001)。

### 石製品 (第32図36～第33図40)

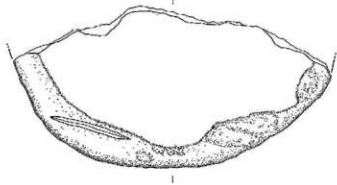
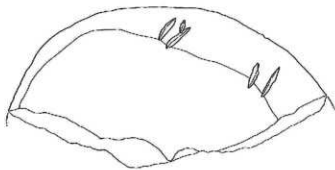
第32図36は砥石である。7面使用しており、1/2欠損している。複数面に半円状の条痕が見受けられ、石材は凝灰岩である。第33図37は両面を使用した砥石である。1/2欠損しており、石材は多孔質安山岩である。38は玉髓を使った火打石である。39は搦臼である。片面のみ使用しており、石材は多孔質安山岩である。40は砥石である。表面および側面の一部に使用面がある。表面中央に凹みがあり、石材は多孔質安山岩である。



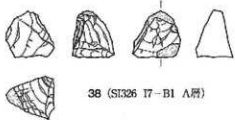
第31図 遺構、遺構外出土物(1)



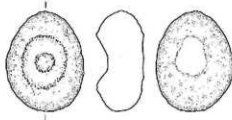
第32図 遺構、遺構外出土遺物(2)



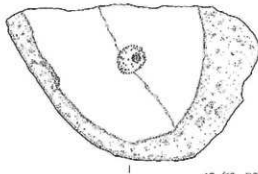
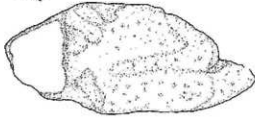
37 (SB320 I16-Q22 底面)



38 (SI326 I7-B1 A層)



39 (H6-V24 P188 層上)



40 (I6-B23 カクラン)

38は1:2  
0 1:3 10cm

第33図 遺構、遺構外出土遺物(3)

### Ⅲ. 総括

**検出遺構** 第64次調査では、中世の竪穴建物跡6棟、竪穴跡1棟、堀跡1条、溝跡1条、中世～近世の掘立柱建物跡22棟、柱列跡6列、土坑12基、柱穴478口、近世の竪穴状遺構1棟を確認した。

**古墳時代** 遺構は確認されなかったが、須恵器の坏(第31図23)が出土している。その形態から、古墳時代中～後期のものと考えられる。東側に隣接する第56次調査でも、同時期の土師器や須恵器が出土している。里館遺跡の北東に隣接する宿田遺跡でも、同時期の遺物が出土していることから、半石川を臨む滝沢台地周辺に古墳時代の遺構が存在していたことが推測される。

**竪穴建物跡** 竪穴建物跡は、隅丸方形で北もしくは南に舌状の出入り口が付けられている例が多い。一辺が約2～4mのほぼ同規模で、調査区西側では重複しているものもある。SI323～325は3時期に渡って建替えが行われたことが考えられる。今回、全ての竪穴建物跡内から時期を示す遺物は出土していないが、建物跡の形状と周辺の詳細事例(第1・56次調査)から推測すると建物跡の時期は概ね15～16世紀と考えられる。

R E 005 竪穴跡は平面プランが1.6m×3.6mの長方形を呈し、深さは1.2～1.3mを計る。出入り口は確認できず、埋土は一括の人為地積で出土遺物は無かったため、当初は後世のかく乱と想定していた。しかし、宇都宮市の飛山城で規模はやや異なるが、同じ長方形プランで長軸状に柱穴を持つ竪穴建物跡の事例(宇都宮市教育委員会1996)などを参考とすれば、出入り口は無いものの、この竪穴跡も中世に属する可能性もありそうである。

**掘立柱建物跡** 掘立柱建物跡は、東西棟が多くを占める。調査区外に延びる可能性があるものが多く、限定的ではあるが3間×2間または3間×1間の建物跡が半数を占める。埋土は掘方色が暗褐色土で痕跡跡は黒褐色土を主体とするものが多数を占める。調査区北東と南西側では集中して検出されており、複数の時期に渡って建替えが行われたことが想定される。

遺物が出土していない建物跡が多いが、過去の調査事例と使用されている間尺(6尺5寸以上)、柱穴跡の埋土の共通性から、概ね里館遺跡の主体となる15～16世紀の時期が想定される。

S B 326～328は1間×9間以上の南北棟の掘立柱建物跡で、その平面形状から馬屋と考えられる。2回建替えが行われており、S B 328→S B 327→S B 326の順序が想定される。いずれの柱穴もS I 326 竪穴建物跡の埋土を掘り込んでいることから、年代は16世紀以降と推測されるが、後述する近世前期に属するS B 329 掘立柱建物跡との関連性は定かではない。

**S B 329 掘立柱建物跡** S B 329 掘立柱建物跡は、身合梁間3間、桁桁6間の東西棟の直屋の南北に1～2間の庇ないし下屋が付く建物と考えられる。建物跡東側の今次調査区外の柱穴は、第56次調査で土坑としていたものであるが、今回、柱筋の見直しを行い新たに柱穴として掲載している。主柱穴には5寸ほどの角材が使用され、版茶状に丁寧かつ強固に柱が据えられている。主柱穴の規模や掘方の埋土状況を見るだけでも、これまでの里館遺跡の調査の中で確認されたことのないタイプの建物跡であることが窺える。柱穴からは古唐津の丸皿(17世紀初頭)や古寛永通寶など出土している。出土遺物の年代から建物跡の年代を考えると、古寛永通寶が初鋳された寛永13(1636)年を上限として、それ以降と推定される。

**柱列** 柱列跡は一部、掘立柱建物跡と重複するものもあるが、大半はすぐ傍に平行して掘立柱建物跡が存在している。概ね、他の建物同様、東西あるいは南北に軸を持っていることから、建物間を仕切る板扉等としての役割が想定される。遺物は出土しなかったが埋土の状態や、近接する建物跡の時期から中世以降と考



えられる。

**柱 穴** 調査区内からは、掘立柱建物跡に属する柱穴を除くと、478口の柱穴を確認した。Pit256からは瀬戸美濃灰陶皿（第31図5）が出土しており、大室1期のものと考えられる。これらの柱穴は本来、掘立柱建物跡を構成していたものと考えられるが、全ての柱穴を掘立柱建物跡の柱穴として、使い切るには至らなかった。出土遺物と埋土の共通性から、掘立柱建物跡や竪穴建物跡と同様に15～16世紀に属するものが主体となると考えられる。

**土 坑** 土坑は楕円形または不整形のものが大平を占め、大きさは長軸が3mを超えるものから1mに満たないものまで様々である。埋土に焼土が含まれているものも認められるため、火を使用した用途も考えられるが、遺物が出土していないため詳細は不明である。

**出土遺物** 今回出土した遺物は、概ねこれまでの調査で出土した遺物と同様の物が多い。すなわち、15～16世紀の中国産陶磁器や瀬戸美濃、永楽銭などの古銭などである。また、18世紀代の肥前陶磁器なども散見されるのは、時代が下って城館としての役割を終え、近世の下栗谷川村の集落として屋敷などの建物等が存在したためである。

遺構に伴うものではないが、かく乱より相馬系陶器の手びねり碗が出土している。これまでも市内の近世遺構から相馬系陶器は多々出土しているが、「金軍」の刻印と胸絵を施し、胎土に砂を混ぜる特徴をもつこの手びねり碗は、雅物と呼ばれ市内では初めて確認されたものである。年代は明治初頭に位置づけられている。

**ま と め** 今回の発掘調査でも、過去の調査と同様に15～16世紀の遺構・遺物が確認され、戦国時代の城館跡であることは明確である。今回の調査区は、東西と北を大規模な堀によって区画され、南は段丘崖によって囲まれた曲輪の中に位置する。遺構の密度と重複関係から城館の主要部分であり、長期間に渡り使用されていたことが想定される。

掘立柱建物跡の大平は3間×2間か3間×1間の小規模なもので、間尺を6尺5寸以上の寸法を用いて作られる傾向がみられる。掘立柱建物が集中する調査区北東と南西側では、柱穴の重複が著しいことから建替えが長期に渡って行われていたことが想定される。竪穴建物は第56次調査区に比べると分布密度は薄いが、重複している。掘立柱建物の建替えと同時に、竪穴建物の建替えも行われていた可能性が高い。竪穴建物は居住用の施設ではなく鍛冶工房や納屋、土室などの用途が想定されている。

掘立柱建物跡以外に478口の柱穴を検出したが、時間と力量不足から全ての柱穴を使い切り掘立柱建物跡を構成するに至らなかった。紙面に掲載した以上に掘立柱建物は増える可能性は十分にある。今後の検討課題とさせていただきたい。

SB329 掘立柱建物跡の建築年代は、城館の主体となる時期からは外れて、江戸前期と考えられるが、その時期は隣接する天昌寺が再興した時期と重なるものである。寺伝によると天昌寺は、厨川藩の時代のころから当地に存在し、当初は天台宗であったという。実際、周辺では台密に関連する鎌倉時代の経塚（宿田南経塚）も確認されていることから、かつては天台宗であったという部分は信憑性が高いかもしれない。いずれ、時代が下ると寺は興廃し、名のみになったといわれている。そこへ、盛岡市上飯岡にある曹洞宗長善寺より七世物賛閑逸和尚が請われ、興廃した天昌寺を曹洞宗へ改宗し、山号を巖鷲山と称し、再興した。その七世物賛閑逸和尚の没年が、慶安二（1649）年となっている。建物跡の平面形状から、仏堂等とは考えられないが、しっかりとした柱の構造からすると、一般的な建物とは考えにくく、現在の敷地からは外れるが、当時の天昌寺に関連する庫裏などの建物跡と考えるのが妥当ではないだろうか。

里館遺跡は、北東に位置する安倍館遺跡と同様に厨厨構の擬定地として、長い間考えられてきたが、今回の調査でも当該期の遺構・遺物は確認されなかった。考古学的見地のみで考えるならば、厨厨構擬定地としての可能性は、ほとんど無いと言わざるを得ない状況である。

里館遺跡は、安倍館遺跡と同様に市街地に残された数少ない中世の城館遺跡である。里館の場合、安倍館遺跡のように堀が埋没せずに残っている状態ではないが、地表下には良好な状態で遺構が保存されていることは、これまでの発掘調査成果が示している。また、遺跡の西部(34・58・60次調査)では12世紀代の遺構・遺物が確認されている。これは、城館として成立した時期を検討する上で貴重な成果である。今後は、里館遺跡がいつの時期から城館として機能していたか、主殿と考えられる建物はどこにあるかなど、中世城館に主眼を置いた調査・研究を進めていくことが重要となろう。その成果が、里館遺跡の文化的価値を高め、周辺地域の歴史や、盛岡周辺の中世城館の成り立ちを語るうえで欠かせないものとなるであろう。

最後にS B 329 掘立柱建物跡の検討にあたり、中村準人氏のご教示を得た。記して感謝申し上げます。

(佐々木亮二)

#### 【引用・参考文献】(発掘調査報告書)

岩手県教育委員会 1979「厨厨構擬定地」【東北新幹線関係風土文化財調査報告書Ⅲ】

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2009「矢盛遺跡第12・13次発掘調査報告書 盛岡新都市土地区画整理事業関連遺跡調査」

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第534集

宇都宮市教育委員会 1996「飛山城第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ次確認調査概報—平成4～6年度—」宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第38集

福島県教育委員会 1989「国営清戸川農業水利事業遺跡調査報告 中村遺跡」福島県文化財調査報告書第208集

#### 【引用・参考文献】(発掘調査報告書以外)

板橋源 1959「厨厨構擬定地盛岡市推現板発掘概報」【岩手大学学芸学部年報】第14巻 岩手大学学芸部

川根正教 2001「克永通宝銅銭の様式分類」『出土銭貨研究会紀要 出土銭貨研究』出土銭貨研究会

東北中世考古学会編 2001「掘立と堅穴 中世遺構論の課題」高志書院

中村準人 2006「掘立柱建物跡から復元した中世港湾都市十三湊の都市構造に関する研究」

中村準人 2015「南部諸城の研究」[紀要 第34号] (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

中村準人 2017「根城復元と掘立再考」【八戸市博物館研究紀要第31号】八戸市博物館

岩崎浩和 1995「曹洞宗 嚴鷲山 天昌寺」『盛岡の寺院』盛岡市仏教会

兵庫埋蔵銭調査会 1996「中世の出土銭 補遺Ⅰ」

兵庫埋蔵銭調査会 1997「近世の出土銭Ⅰ」

兵庫埋蔵銭調査会 1998「近世の出土銭Ⅱ」

## 付章

### 里館遺跡の古絵図「斉藤家五代目善右衛門豊昌様之里館の絵図」について

#### 1 はじめに

「斉藤家五代目善右衛門豊昌様之里館の絵図」は、今次調査区の土地所有者である宗教法人天昌寺が、所有する絵図である。白黒複写（コピー）したものを天昌寺の先代住職の親が入手したものとすること以外、詳しい来歴は不明であり、原本の所在は不明である。

現存するコピーから、絵図は86.0cm×78.5cm以上の大きさであり、裏に41.5cm×20.5cmほどの裏書がある。原本はおそらく、和紙を接いだもので、墨と所々に朱等で描かれたものと推察される。

この絵図に描かれた地点の範囲は、今次調査地点及びその周囲と考えられることから、書き下し翻刻した（第34図）。また、併せて絵図の内容と今次発掘調査及び第1次、第29次、第56次の発掘調査成果と比較した。

#### 2 絵図について

書き下し翻刻したものを第34図に掲載した。以下、絵図の内容を概観する。

本絵図には、中央南寄りに描かれた屋敷と、その周囲の建物、構造物、土地利用、立木の種類などが描かれている。屋敷は、その構造や建具の数などのほか、板敷き、窓の種類などが詳細に記述され、柱間寸法なども、おおよそ正確に描かれていると見られる。しかし、この屋敷と中央やや北寄りの祠、屋敷南西側建物以外の建物や構造物は、その描き方の差から、概ねの規模と位置関係を記したものと考えられる。

裏書には、建物の規模や建具類の数の記録や建築から改築の経緯が記されている（下段参照）。これによればこの絵図は、文政5年（1822年）の秋に改築完成した屋敷について、恐らくこの屋敷の主である豊昌のために書いたものである。屋敷は、安永年間（1772～1780年）から建築に着手し、寛政6年（1794年）に建替え、寛政、享和、文化年間に手入れをし、文政5年秋にこの絵図の形に完成したようである。また、文政7年に屋根改修（差し葺き？）も行ったことが、文政7年に追記されたものと見られる。

これらのことから、本絵図は文政5年秋以降に描かれたものと考えられる。文政7年の改修についての2行は、筆跡などから、文政7年以降に書き加えられたものと推察される。

次に、絵図の内容を見てみる。

絵図は四隅にそれぞれ東西南北の方位が書かれ、中央南寄りに屋敷が描かれる。

この屋敷は、北側に土間の入口、西側に大戸入口がある。建物中央には常居の座敷があり、その周囲に庫裏や板間などが配置された大規模なものだった。

絵図の南東辺中央付近に、道と入口が見え、階段状の表記がある。その登りきったところに冠木門のような表記が見える。そこから東西に分かれた道が北へ延び、西側には鳥居があり、北側の祠へと通じる。東の突き当りには、冠木門が見える。この冠木門の北東側に屋敷が立地する。庭園が整備されている。「文政十一年五月庭作直し」とあり、建築当初から庭園が整備されていたようである。南側は池が整備されていたと思われ、中島や石灯笼、松、さつき、キャラ木、トクサなど植栽が表記されている。池の北側には、石灯笼が置かれ松などが植えられていた。屋敷東側の九畳の座敷の障子を開け廻り縁に立てば、この庭園と借景として東方の早池峰山などの山々が望める構造だったのではないだろうか。庭園の東側には柴垣（？）、北側には六間分の板敷で区画されている。庭園の南側

から石段付近までは段丘となり、木が生い茂る林となっていたようである。

屋敷の北東側には前庭（前二ハ）、北西には祠へ通じる参道、その参道入り口の西側に便所、便所の南側は畑と物干し場、冠木門のすぐ西には井戸、南東には空き地と便所のような建物が配されている。その外側は、畑として利用されていたようである。

屋敷地の道を挟んだ南西には、桁行七間梁行三間、北西側に三間突き出る曲家状の建物と、その東には北側へ入口を持つ小屋がある。この建物には、「文政十亥十月 三間四間 新規建替」「三重郎父」と表記されている。これは、水路を隔て西側の「四百四十坪 里館三重郎」の父の家と考えられる。

庭園の北東には、松が植えられた土手が巡る「志福魂宮」というお堂が見える。現在の、供養塔北側付近の駐車場の地点に当たるか。

また、屋敷北西側の通路の奥には、烏居が建ち、西へ折れるとまた烏居があり、その北側に三間二間の祠がある。杉や松の生える土手で囲まれ、「文政十亥十月□□□□」とある。現在のガソリンスタンド西側の駐車場入口から西のビルに当たるか。その北には、東西に道が延び、現在の国道46号線付近と考えられる。おそらく第1次調査で検出した「稲荷社跡」に関係する建物を指すものと考えられる。

屋敷地の北から東にかけては、用水路があり、これには「岩鷲山天昌寺 廻りの沢堰境なり」と表記され、天昌寺との土地の境界線とみなされていたようである。この用水路は、城館の堀跡をそのまま転用されたものと考えられ、現在も用水路として使われている。

### 3 発掘調査成果との比較

発掘調査で検出した遺構と、この絵図の建物など構造物の位置関係を比較する。

現在の天昌寺と今次及び第56次調査範囲を隔てる水路跡は、本絵図の北から東にかけて描かれている用水路と考えられる。用水路とその東側の「岩鷲山天昌寺」は現在の位置と変わらないだろう。絵図に描かれたこの用水路は、北側から西方へ屈曲し延びる。この水路は現在もお水路として残っており、場所が比定できる。

本図の中央やや北寄りに見える「文政十年（1817）亥十月□□□□」とある烏居と祠は、第1次調査で検出した「稲荷社跡」の遺物跡と烏居跡であることが、位置関係や構造から比定できる。

以上の位置関係を参考にすると、本絵図中央南寄りの屋敷の北西側に、梁間1間桁行3間の東西棟の便所が描かれているが、今次調査区北西側のRB320掘立柱建物跡の可能性もある。また、第56次調査のRZ002・003・004は、本絵図東側の庭の池の痕跡または作庭時の何らかの痕跡の可能性が考えられる。

一方、本絵図に描かれた屋敷は、今次調査及び第56次調査で検出した掘立柱建物跡とは、柱配置等から比定することはできなかった。これは、本絵図に描かれた文政年間頃のこの規模の建物は、表土上に礎石を据えて柱などを建てる石場建てになっている時期と考えられ、遺構掘削深度が浅かったため、遺構として検出できなかったものと考えられる。

しかし、この絵図が描かれる前に掘立柱建物で作られた烏居や祠建物（第1次調査報告における稲荷社跡）は、代々その場所を変えずに場所が受け継がれたこと、そして便所跡は石場建てよりも簡便な掘立柱建物で作られていたことにより、発掘調査でその柱穴が検出されたものと考えられる。

#### 4 まとめ

『盛岡藩家老席口誌 雑書』享保12年(1727年)3月20日の記事に、下栗谷河村三十郎居宅が失火により焼失し、天照寺(天昌寺)もその飛び火により焼亡したと記されている(下段参照)。本絵図の中央やや北寄りに、「里館□(無カ?) 高屋敷 享保十五年庚戌□□」上有「文政五年午年迄 九十三年に成候 千坪半 里館 三十郎」とみえる。これは享保15年から文政5年まで93年たっており、雑書に見える享保12年の火災で焼失した三十郎居宅があった享保年間以降、この場所には屋敷がなかったという意味と推察される。(絵図には享保15年とあるが、享保12年の誤りか。)本絵図の南隅には「四百四十坪 里館三重郎」と見える。雑書に見える河村三十郎と関係があるかは不明である。なお、天昌寺の由来には、この火災のことは記載されていないようである。

残念ながら、管見の限りでは、本絵図の主である齊藤家五代目善右衛門豊昌の情報は見つけれなかった。

以上のことから、本絵図は本発掘調査成果と共に、近世後期におけるこの場所の土地利用について、詳しく知ることのできる貴重な資料と言えよう。

最後に、本稿に当たり、宗教法人天昌寺、安田華人氏(元盛岡市都南歴史民俗資料館学芸員)、菊池早希氏(盛岡市教育委員会事務局歴史文化課学芸調査員)の多大なる御協力を頂いた。記して感謝申し上げます。(今野公顕)

#### 【引用参考文献】

盛岡市教育委員会・盛岡市中央公民館1999『盛岡藩家老席口誌 雑書』第13巻P385 熊谷印刷

盛岡市教育委員会1985『盛岡市埋蔵文化財調査年報—昭和55～58年度—』

盛岡市道路の学び館2013『里館遺跡-供養塔および駐車場造成に伴う緊急発掘調査報告書-』宗教法人天昌寺・盛岡市教育委員会

「齊藤家五代目善右衛門豊昌様之里館の絵図」裏書

家裏四間四尺桁行八間四尺西南二間宛出家  
堂四拾四疊外六疊有りノ五拾疊

小障子 六敷

障子 三十一敷

小襖戸 六敷

大襖戸 十三敷 外四敷 □式敷

戸 式十敷

大戸 壹敷

坪 六十五□

厩根坪ノ百式拾はと

右建屋並附廻り

此図は豊昌様之

被為書繪絵図なり

文政五年秋御一被成候

安永年中分屋しき巻敷々手入いたし

寛政六寅に建替

寛政年一令享和年

文化年中家主人文政五年壬午秋改

同七年中一不詳明辨成不態一

同屋根茶一不詳明辨成不態一

下野川巴里館之屋敷絵図

七座敷外皮間也

四間室に八間四尺下座

式家二間に三間下座有

「盛岡藩家老席日記 雑書」第十三卷 P 385

享保十二年三月廿日 雨天

一 栗谷川邊御代百所之内、下栗谷河村三十郎唐宅百火にて焼失、夫より天照寺  
飛移築仕替貫、御代官高杉新兵衛様之、右火本人組頭廣候由、申上之



「齊藤家五代目善右衛門豊昌様之里館の絵図」裏書



第34図 齊藤家五代目番右衛門豊昌様之里館の絵図

写 真 图 版





里館遺跡第64次調査区透景（南東から）



里館遺跡第64次調査区全景（上が北）

第2図版



SI327 竪穴建物跡（南東より）



竪穴建物跡（SI323～325）重複状況（南東から）



SA312 柱列跡, SB324 ~ 328 掘立柱建物跡 (上が北)

第4図版



SB329 掘立柱建物跡（上が北）



SD300 堀跡（南東より）



里館遺跡第64次調査出土遺物①

第6図版



里館遺跡第64次調査出土物②

## 報告書抄録

ふりがな	さたていせき							
書名	里館遺跡							
副書名	保育園建設に伴う緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	佐々木亮二 今野公顕							
編集機関	盛岡市 遺跡の学び館							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1 TEL019-635-6600							
発行機関	社会福祉法人天昌寺福祉会 盛岡市教育委員会							
発行年月日	2019/8							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さたていせき 里館遺跡	いわてけんりやうし 岩手県盛岡市 天昌寺町	3201		39° 40' 57"	141° 08' 19"	(第64次) 2018.04.2～ 2018.06.22	920	保育園建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
里館遺跡 (第64次調査)	城館	古墳時代			須志器環		城館の主要部分に当たると考えられる地点を調査し、多数の掘立柱建物跡や竪穴建物跡が確認された。	
		中世	竪穴建物跡	6	陶磁器(中国産染付け、瀬戸美濃灰釉、肥前染付、相馬大塚手塗り碗、岩手焼)、釘、搦臼、砥石、古銭(寛永通寶、永楽通寶無銘銭)			
			掘立柱建物跡	19				
		中～近世	柱列跡	8				
			土坑	12				
近世	柱穴	478						
			竪穴跡	1				
			掘立柱建物跡	3				
要約	里館遺跡はこれまでの調査で堀跡や掘立柱建物跡などが確認され、出土遺物の年代から15～16世紀を主体とする城館跡であることが判明している。第64次調査では、掘立柱建物跡や竪穴建物跡など、これまでと同じく中世城館を構成する遺構が多数確認された。その遺構密度から今回の調査地点は城館の主要部分と考えられる。また、江戸初期に再建された曹洞宗巖鷲山天昌寺に関わると考えられる大形の掘立柱建物跡を確認した。							

---

## 里館遺跡

—保育園建設に伴う緊急発掘調査報告書—  
2019年8月31日 発行

- 編 集 盛岡市遺跡の学び館  
〒020-0866 盛岡市本宮字荒屋13番地1  
Tel. 019 - 635 - 6600
- 発 行 社会福祉法人天昌寺福祉会 盛岡市教育委員会
- 印 刷 株式会社 社陵印刷  
〒020-0122 盛岡市みたけ2丁目22-50  
Tel. 019 - 641 - 8000
-